

文部科学省 委託事業

新時代に対応した高等学校改革推進事業  
(普通科改革支援事業)

第1年次実施報告書



令和6年3月



愛知県立惟信高等学校



## 【巻頭言】

### 魅力溢れる新学科設置へ向けて

愛知県立惟信高等学校 校長 岩堀 昌史

本校は大正14年に設立された愛知県惟信中学校を前身とし、令和6年度に創立100周年を迎えます。長年にわたり地域を支える多くの人材を輩出してきており、地域と共に歩んできた学校であります。近年では職員の話し合いを重視したボトムアップによる改革「惟信再生」活動により生徒指導等困難な時期を乗り越え現在に至っております。この間、どのようにすれば普通科高校の特色が打ち出せるのか、また、学校を活性化できるのかを考え、文部科学省や愛知県教育委員会の事業に積極的に参加したり、地域貢献活動を積極的に行ったり、海外研修を実施したりする等、様々な行動や工夫を重ねてまいりました。そして、更なる学校の魅力化、特色化を図るため令和5年3月に文部科学省「新時代に対応した普通科改革推進事業（普通科改革支援事業）」（以後、新事業と表記）に応募をし、令和5年4月、指定校に採択され、現在その1年目を終えようとしています。指定校採択後、校内では令和7年度4月の新学科設置に向けて様々な取組を進めております。この1年の取組は、本報告書に示す通りでありますので、次ページ以降をお読みいただければ幸いです。

私は校長として本年度より本校に赴任しました。4月当初はこの新事業の内容や学校の現状をよく飲み込めないままの職務開始となり、新事業へ対応する教職員への周知、体制づくりをはじめとする全ての対応が遅れ、教職員間の共通理解不足となり、教職員の不安や心配を招きました。一部担当教員がかなりの負担増となり、多くの教員が不安や負担感を持ち通常業務を進めることとなってしまいました。

7月からコーディネーターが配置され、そこから担当の図書探究部が中心となりこの業務を進めました。教職員への共通理解を図るため、全教職員への説明や研修会等を数回実施しました。新事業指定校採択時はすでに新年度がスタートし、教職員は授業時間や分掌、学年業務等、通常業務が割り振られていたため、特に担当者は通常業務の上に新事業の業務が重なり、かなりの負担となってしまいました。会議をする場合でも担当同士の空き時間を調整して行うか、勤務時間終了後に行うしかありませんでした。「働き改革」が叫ばれる昨今、時代の流れに反する動きの中で実際の取組が進みました。

そのような中でもコーディネーター、図書探究部の担当が中心となり、限られた時間の中、教職員間でできる限りの共通理解を図り、一步一步新事業に対する取組を進め、現在に至っております。現在は次年度へ向けての校内体制の再構築を進めております。1年間の反省をもとに全教職員共通理解のもと、新事業でありますので多少の負担は全教職員が理解し、一丸となって取組を進められるよう校内の体制を整えて参りたいと思います。そして、令和7年4月、万全な形で新たな普通科「未来探究科」をスタートさせたいと考えています。

# 目次

## 【巻頭言】

### 第Ⅰ章 事業の概要

- 1 本校の概要
  - 1-1 所在地
  - 1-2 設定課程と在籍生徒数
  - 1-3 本校の位置
  - 1-4 学校経営方針
  
- 2 事業構想（ビジュアル資料）
  
- 3 本事業の内容
  - 3-1 本事業の目的
  - 3-2 本事業の目標
  - 3-3 本事業の特色
  
- 4 実施計画
  - 4-1 3ヶ年間の実施計画の概要
  - 4-2 令和5年度実施計画の概要
  - 4-3 令和6年度実施計画の概要
  - 4-4 令和7年度実施計画の概要
  - 4-5 令和5年度の実施計画の内容
  
- 5 管理体制
  - 5-1 管理機関における実施体制や事業の管理方法
  - 5-2 管理機関における事業全体の成果検証、評価のための体制、考え方
  
- 6 実施体制
  - 6-1 校内の運営体制
  - 6-2 運営指導委員会
  - 6-3 コンソーシアム
  - 6-4 コーディネーター
  
- 7 成果普及のための仕組み

### 第Ⅱ章 研究開発実施状況報告

- 1 令和5年度の進捗状況
  - 1-1 図書探究部の活動
  - 1-2 探究推進委員会
  - 1-3 職員研修
  - 1-4 運営指導委員会
  - 1-5 コンソーシアム

- 2 活動実績
- 2-1 先進研究校視察
- 2-2 「総合的な探究の時間」の取組
- 2-3 成果発表会
- 2-4 惟信マルシェ

### 第Ⅲ章 事業検証と次年度に向けて

- 1 本年度の反省と課題（成果概要図）
- 2 事業運営体制の見直し
- 3 学科名の改称に向けて
- 4 コーディネーター考察

#### <参考資料>

- ① ロジックモデル
- ② 「探究授業とは？」（集約資料）
- ③ 「学びの探究」に向けた各教員・教科の研究（アンケート回答抜粋）
- ④ 教員研修（研究協議）
- ⑤ 掲載新聞記事
- ⑥ 掲載新聞記事

## 第 I 章 事業の概要

### 1 本校の概要

#### 1-1 所在地

〒455-0823

愛知県名古屋市港区惟信町二丁目 262 番地



#### 1-2 設定課程と在籍人数（令和 5 年 4 月 1 日現在）

学年	1 年	2 年	3 年	計
学級数	7	7	7	21
生徒数	281	269	247	797
計	281	269	247	797

#### 1-3 本校の位置

本校は、大正 14 年（1925 年）に設立された愛知県惟信中学校を前身とし、令和 6 年度に創立 100 周年を迎え、卒業生はすでに 3 万人を超えている。第 2 次世界大戦、伊勢湾台風等、幾多の困難を乗り越え、地元の伝統校として多くの人材を輩出してきた。しかし、平成の時代に入り、世界は大きな転換期を迎えていたが、本校は時代の転換点を機敏に察知し、新たな視座を持って学校改革に臨むことができていなかった。「伝統に胡座」をかいていたがために、著しい結果を出し得ていない本校に取って代わろうとする近隣校の追撃を受けるに至り、それまでの地位を占めることが難しくなっていた。

そうした状況を打開すべく、平成 16 年度から「惟信再生」活動が始まった。職員の話し合いを重視したボトムアップによるその改革は、名古屋市内の伝統校においては成し得ない、職員の参画意識を高めることに成功した「学校改革」であった。これにより困難な時期を乗り越え、学校復活に向かうかと思われた矢先、総合学科高校が躍進する中で、新たな普通科高校の特色を打ち出す必要性に迫られた。そこで、平成 25 年度から 3 年間文部科学省指定事業「多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」を経て、実践的な英語教育を実施するなど、模索の日々が続いていた。令和に入り、私立高校への就学支援金拡充の影響から私立高校への人気が高まった。本校を含む名古屋市周辺地域における中下位の普通科高校では、学校存続への危機感を有するとともに、地域を支える公立普通科高校として存在感を示すことが急務となっている。このような中、本校は令和元年度から普通科高校としての特色を打ち出すべく、「グローバルリーダーの育成」を目標に掲げ、令和 2 年度文部科学省「地域との協働による高等学校改革推進事業（グローバル型）」アソシエイト校として採択され、普通科高校の「特色化」への準備を進めた。また、愛知県教育委員会事業「地域の未来を創る人材育成事業（道德教育推進事業）」の実践校として、地域との協働による「特色化」を図ろうとしていた。しかし、またしても、新型コロナウイルス感染症による全国一斉の臨時休業に見舞われ、その後のコロナ禍においては限られた範囲での地域貢献活動とならざるを得なかつ

た。そうした中でも、平成30年度から継続していたオーストラリアへの海外研修旅行（令和2・3年度は中止）を、令和4年度にはアメリカ合衆国へと切り替えて姉妹校提携を目指し、令和6年3月末からはフィリピン研修旅行を実施する。

本校は、人口が集中し、多文化共生がすすむ都市部にあるいわゆる“普通”の公立普通科高校であるが、日本の貿易拠点である名古屋港に臨み、増加する外国籍の人々への対応、海拔0メートル地帯における防災、高齢者へのサポート等、地域が抱える課題は山積している。今後ますます進むであろう外国人労働者の受け入れ、30年後までの発生確率が70%といわれる南海トラフ地震、隣人の顔すら知らずに過ごしがちな都市部において、公立普通科高校で学ぶ生徒が、国際的な広い視野を持って、地域に新しい価値を創造し、地域に貢献することができれば、生徒自身の「自己有用性」を高めることにつながると考える。生徒自身が言葉の壁を乗り越えて多文化共生社会の一員となり、未来や自己を見つめることで「自立型思考力」を獲得し、都市部での課題を見つけ出し、課題解決に向けて試行錯誤する探究活動を通じて、新しい価値を創造し、地域社会に貢献するという都市型公立普通科高校での汎用的・普遍的な探究活動に挑戦する。

都市の中では埋没しかねない中位程度の“普通”の普通科高校で改革が進むことの意義は大きい。特別な産業との結びつきによる地域協働や過疎地域での地域協働とは異なる汎用性の高い公立普通科高校での教育改革を目指している。

#### 1-4 学校経営方針

##### 【校訓】

「高い知性」 「豊かな心」 「粘り強い体力」

##### 【スクールミッション】

- 主体的に学ぶ態度を身につけ、国際的な視野と国際社会に生きる人間としての自覚をもった生徒の育成を目指す学校
- 他者との協調を大切にする豊かな人間性と社会性を備え、地域のリーダーとして社会の発展に寄与しようとする自立した生徒の育成を目指す学校

##### 【スクールポリシー】（愛知県立惟信高等学校 「三つの方針」）

- 1 目指す生徒像（育成を目指す資質・能力に関する方針）
  - ア 高い志を持ち、社会に貢献することができる人
  - イ 幅広い視野を持って考えることができる人
  - ウ 自分も周りの人も大切にできる人
  - エ ものごとくに粘り強く取り組むことができる人
- 2 本校における学び（教育課程の編成及び実施に関する方針）
  - ア 生徒が主体的に進路実現を目指すことができる教育課程
  - イ 生徒が活躍できる教育活動
  - ウ 生徒一人ひとりを大切にする指導と支援
- 3 入学を期待する生徒像（入学者の受入れに関する方針）
  - ア 地域社会への貢献や国際的な活動に関心を抱いている人
  - イ 他者に思いやりを持って接することができる人
  - ウ 粘り強く学び続けるとともに新しいことにも挑戦したい人



2 事業構想

※ 計画時の新設学科名「グローバル探究科」から「未来探究科」へと名称変更を予定している。





### 3 本事業の内容

#### 3-1 本事業の目的

本校は、スクール・ポリシー「目指す生徒像（育成を目指す資質・能力に関する方針）」の第一に、「高い志をもち、社会に貢献することができる人」を挙げ、地域社会学科での学びを通して、多様性のある地域共生社会で新しい価値を創造し、「高い志」をもって地域社会に貢献できるグローバル人材を育成することを目的・目標としている。様々な情報が飛び交う時代においては、多様な人々の意見を参考にしながら、国際的な広い視野を持って自分の考えを深める「自立型思考力」を養い、物事の本質を見る目と事象を根源的に捉える力が必要となる。

そうした「自立型思考力」を育成するためには、「空間軸」「時間軸」「人間軸」といった3つの軸をもって地域の課題解決に向けた探究活動に取り組むことが必要である。「空間軸」とは、自分と世界・世間の関係性を築き、最終的には故郷（地元・地域）へと帰って来るもの。「時間軸」とは、過去から未来へとつながり、過去との対話から未来を見つめ、将来を展望するもの。「人間軸」とは、人とのつながりの中から仲間や地域を意識し、人との触れ合いの中から仲間や地域の中での自己を見つめるものである。この3つの軸をもって地域の課題解決に向けた探究活動に取り組むことで、地域社会とつながり、未来を見据え、自己と対峙して、集団における己を知ることとなる。外国人を含む多様な地域の人々との肌感覚のある交流は、生徒自身の視野を広げるだけでなく、生徒たちが活動する地域と世界のつながりを知るきっかけになる。この学びを通して、「実践力」と「自立型思考力」の2つの資質・能力を育み、多様性のある地域共生社会で新しい価値を創造し、地域社会に貢献できるグローバル人材を育成することが新学科設置の目的である。

「実践力」の育成については、現状の多様性のある地域社会、特に若者に蔓延するネット空間では得ることのできないリアルな実践、肌感覚の学びを体験することで、目前の課題解決に向けて粘り強く向き合う「実践力」を育みたい。

「自立型思考力」の育成については、自分で選択した地域の課題の解決に向けて、「空間軸」「時間軸」「人間軸」の3つの軸をもって探究活動（実践）に取り組むことで、外国人を含む多様な地域の方々からの意見を参考にしながら、国際的な広い視野を持って自分の考えを自ら深めることができる「自立型思考力」を育成したい。

地域に根ざした探究活動（発見－交流－貢献）を実践することで、「実践力」と「自立型思考力」を育み、多様性のある地域共生社会で、新しい価値を創造し、地域社会に貢献できるグローバル人材を育成する。

#### 3-2 本事業の目標

本校においては、基礎的・基本的な知識及び技能を十分に修得することなく入学する生徒や学習に対するコンプレックスを持ち、自己肯定感の低い生徒も見られ、不登校となる生徒も少なからずいる。一方で、本校には純朴な生徒たちが学校行事や地域のボランティア活動など校外活動等に熱心に取り組んできた土壤がある。こうした本校の現状と特性を鑑み、共通教科の授業において、基本事項をより本質的かつ興味深く学び直し、本来の学びの意義を感じられるようにするとともに、多様化する地域社会での探究活動を通して、生徒の「実践力」と「自立型思考

力」を育て、「高い志」をもって、多文化共生社会の未来を拓くグローバル人材の育成を目指した普通科高校改革を行う必要性があると考え。自己肯定感の低い生徒においても、地域社会に見守られながら探究活動に取り組み続ける中で、「高い志」が醸成されると考える。

令和2年度からの文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」アソシエイト校、愛知県教育委員会「地域の未来を創る人材育成事業」実践校としての取組から得られた、生徒の学びを推進するのに必要不可欠な地域との良好な関係を活かし、生徒の主体性を育むために、生徒が学ぶ内容が学校側の用意した研究対象領域に制限されることのないよう、地域との関係をより強固かつ柔軟なものとして、生徒が自ら作り上げる主体的活動を尊重できる体制を整え、令和7年度の新学科開設に結びつけていきたい。

既設の普通科・新設のグローバル探究科の生徒が共に学ぶ「総合的な探究の時間」とおして、両者が互いに刺激し、影響を与え合うことで、普通科の生徒にも「実践力」と「自立型思考力」が普及し、生徒全員が独自の視点を持って、力強く地域社会で活躍するグローバル人材となることが期待できる。生き生きと地域で探究活動する生徒自身が魅力の普通科高校となることを目標として掲げる。

この取組が、本校の生徒の成長につながり、本校の復活、引いては日本の都市型普通科高校の改革に寄与したい。

### 3-3 本事業の特色

#### 【取組の前提】

取組の前提として、本年度から実施される「総合的な探究の時間」の内容を新学科の取組につなげていく。新学科設置後は、「総合的な探究の時間」の取組を基礎とし、その上に学校設定科目「グローバル総合探究」を発展的に展開する2階建て構成とする。新学科の設立は普通科高校改革を視野に入れたものであり、「総合的な探究の時間」の授業実践の研鑽により、新学科で実施される学校設定科目が普通科の「授業」に還元されるものとなる。

#### 【教育方法の特色 魅力ある教育を構築する2点の支柱】

1. 3つの軸「空間軸」「時間軸」「人間軸」をもって、教員誘導でなく主体的に探究活動に取り組む・・・生徒主導とする。3つの軸を、生徒の活動の立案や実践時の指針及び自己評価の基準とすることで、課題を自ら見つけ試行錯誤を重ねて活動することができる。
2. 地域に根差した探究活動をベースとし、その実践を通して幅広い視野を獲得する・・・ネット空間では得ることのできないリアルな実践、肌感覚の学びが体験できるよう、地域に根差した課題をテーマとした探究活動を実践することで「実践力」を育てる。

#### 上の2点の支柱を基とした教育活動の内容

前提より「総合的な探究の時間」の取組とつなげ、下記のような取組を考えた。（特に新設学科の指定教科の取組は≪指定≫と付記。）

- (1) 個人テーマ研究 地域・国際交流をベースとして「文化、歴史、政治、教

育、防災、福祉、技術、環境、産業、人権」の10個のキーワードと関連した事柄を一人一人の生徒がテーマとし、個人研究、グループ発表、意見交換、地域の方の協力等を経て、継続的に研究する。

- (2) **原点授業**≪指定≫ 交流活動やボランティアに興味を持つ本校の生徒は一般教科を軽視する面が窺える。そこで小中学校での既習教科の基本事項をより本質的にまた興味をもって学び直すことで本来の学びの意義を感じさせ、高校での学習に繋げる授業を工夫する。この取組が普通科の授業にも反映させられるように学校全体で共有する。
- (3) **地域自慢・名物発掘** 個人研究および地域探究活動の第一歩として、自分の住む町の誇れる名物（人、産業、名所、名店、歴史的価値、環境）を1年生が個人で探し、地元の方にインタビュー協力を得て調査報告する。特に、ラムサール条約登録地である藤前干潟の保全に着目し、地域と世界を関連付ける素地とする。また、学校内でのクラス発表や学年発表の機会とする。
- (4) **惟信マルシェ** 本校伝統の文化祭「柊祭」の財産を活かし、地元と協力し地元拡大マルシェ（地元名物発表コーナー、地元文芸発表、地元産業販売屋台）を地域住民、近隣中学生を招いて開催する。「総合的な探究の時間」の活動として、生徒「総探委員会」の主体的な取組として、計画・準備・実施を新学科が中心となり運営する。
- (5) **仮想リアルエントリーシート作成**≪指定≫ 地元（県内）産業、企業、公共機関等で魅力を感じ、就職したいと思う対象を探し、調査した上で、採用されるべく、仮エントリーシートを作成。自分が卒業後、希望の進路にすすみ、そこで理想的に成長した自分を想定することで、未来探究の実践とする。

## 4 実施計画

### 4-1 3年間の実施計画の概要

新学科の中心となる取組は生徒の探究活動である。探究活動は普通科の生徒とともに学ぶ「総合的な探究の時間」を土台とし、学校設定科目「グローバル総合探究」で探究活動の高度化・深化に取り組む。新学科生徒と普通科生徒の連携が新学科の学習効果、さらには学校全体の活性化を生み、普通科改革を推進する。従って、実施計画では「新学科の設計」とともに、土台となる「総合的な探究の時間」の再構築が必須事項となる。

- ・「グローバル総合探究」の設計（探究活動の高度化・深化）〔2F〕
- ・「総合的な探究の時間」の先行実施（概案から詳細案までを再構築）〔1F〕

### 4-2 令和5年度実施計画の概要

【「新学科」設立に向けた2階建て構成の大枠策定と「総合的な探究の時間」の先行実施】

- 「グローバル探究科」設立への組織作り、取組内容の概案の作成
  - ・「図書探究部」の役割分担及び校内組織の組成
  - ・コーディネーターを中心とした関係機関への依頼（協力体制の構築）
  - ・全職員対象の校内研修による実施計画への理解
  - ・探究活動ワークシート作成
  - ・「アクティブ・ラーニング」ルームの設置
  - ・コンソーシアムの再構築と地域への協力依頼
  - ・生徒の探究活動を推進するための教員による地域の事前調査と研究、意見交換
- 「総合的な探究の時間」の先行実施（概案及び実験的試行を含む詳細案の再構築）
  - ・本校生の主体的活動の可能性を探り、職員で取組の構図と意義を共有
  - ・特色選抜入学生の活動状況を参考にした新学科の学びの想定
  - ・図書探究部とコーディネーターによる先行実施の準備
  - ・2学期より「総合的な探究の時間」の先行実施（試行実施）
  - ・原点授業の公開模範授業の実施と研究（「総合的な探究の時間」と共通科目との連動に関する研究）
  - ・学校設定科目の内容検討
  - ・カリキュラム案作成

### 4-3 令和6年度実施計画の概要

【「新学科」設立への具体的な準備と総探の試行的年間実施】

- 「総合的な探究の時間」年間活動の試行実施（連動する新設学科の活動を想定）
  - ・探究活動ワークシート作成
  - ・生徒研究成果発表会の実施（地域への発表）
  - ・地域住民の出前講座、地域と連携したフィールドワーク等の先行実施
  - ・年間計画の見直しと総括的反省
  - ・運営指導委員会の開催（活動報告・「グローバル探究科」設置への進捗状況説明）
- 「グローバル探究科」の詳細計画 準備

- ・コーディネーターと図書探究部による各活動の日程と内容の策定
- ・学校設定科目の内容決定
- ・カリキュラム案の決定

#### 4-4 令和7年度実施計画の概要

##### 【「新学科」開設、普通科と連動した活動の開始】

- 「総合的な探究の時間」の全校実施と「グローバル探究科」の開設
  - ・新学科の開設及び学校設定科目の開講
  - ・研究指定終了後の自走に向けた体制整備（コンソーシアムの持続）
  - ・総括的反省（改善点を更新）
  - ・事業3年間の報告書の作成

#### 4-5 令和5年度の計画の内容

	カリキュラムや教育方法等の開発	関係機関等との連携・協力体制の構築
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員へ現状報告</li> <li>・目的意識の共有</li> <li>・組織作り</li> <li>・図書探究部員の役割</li> <li>・コーディネーターとの打ち合わせ</li> </ul>	地元区役所、警察署、区長への挨拶 （管理職・図書探究部部長）
5月	採用決定後、コーディネーターとともに今年度の準備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画を作成し、探究推進委員会に報告（職員への周知）</li> </ul> ≪「新学科」設立の前提となる「総探見直し（2階建構成の大枠を検討）」≫	地元区役所、警察署、区長への協力依頼 （図書探究部長・コーディネーター）
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期からの「総合的な探究の時間」先行実施への立案と実施準備</li> <li>・次年度の「総合的な探究の時間」の年間計画検討</li> <li>・「グローバル探究科」設置計画の立案</li> </ul>	運営指導委員会への挨拶と「年間指導計画（素案）」の提出
7月	（6月の内容を継続） <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室をアクティブ・ラーニングルーム化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期の地域探究の開始に先駆けて実施する外部講師を連携機関から選定し、派遣を依頼</li> <li>・第1回運営指導委員会開催</li> </ul>

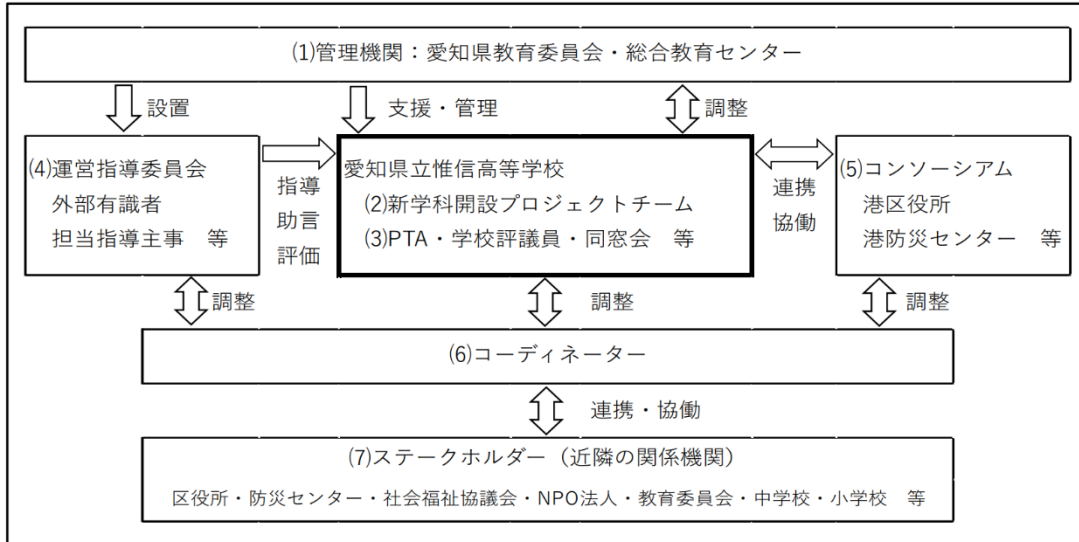
8月	<p>(6月の内容を継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の関係機関とのフィールドワークの時期や出前講座の方法等、連携内容について協議を開始する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンソーシアム第1回定例会議を開催、地域社会学科に対する要望の確認</li> </ul>
9月	<p>「総合的な探究の時間」の先行実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒「探究テーマ」の策定</li> </ul>	<p>「総合的な探究の時間」への協力依頼、外部機関訪問 (図書探究部長・コーディネーター)</p>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「総合的な探究の時間」における生徒の活動を観察し、次年度以降の授業内容を検討</li> <li>・学校設定科目のカリキュラムの検討開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「総合的な探究の時間」への指導・助言</li> <li>・第2回運営指導委員会開催</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度以降の「総合的な探究の時間」の実施内容を検討</li> <li>・学校設定科目のカリキュラムの検討開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「総合的な探究の時間」への指導・助言</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度以降の「総合的な探究の時間」の実施内容検討</li> <li>・学校設定科目のカリキュラム検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「総合的な探究の時間」への指導・助言</li> <li>・コンソーシアム第2回定例会議にて取組の振り返り</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の「研究発表」準備</li> <li>・「学校設定科目」研究準備を職員へ説明</li> <li>・原点授業の公開模範授業の実施と研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「総合的な探究の時間」成果発表の広報活動(コーディネーター)</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該年度の地域活動を職員会議にて報告</li> <li>・考案カリキュラムを職員会議にて報告、意見収集</li> <li>・「総合的な探究の時間」成果発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンソーシアム第3回定例会議にて地域活動等の総括</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議にて、年度内の成果とカリキュラム開発の進捗について報告・意見集約</li> <li>・次年度以降の「総合的な探究の時間」と学校設定科目の詳細計画を策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回運営指導委員会の開催</li> </ul>

## 5 管理体制

### 5-1 管理機関における実施体制や事業の管理方法

#### 【事業実施体制】

下図のとおり実施体制を構築する。



#### 【事業管理方法】

次の方法により事業を管理する。

##### (1) 管理機関

愛知県教育委員会及び総合教育センターを管理機関とする。本県の普通科改革の方策や他校の実践事例を共有し、運営指導委員会を通じて定期的に指導・助言する。

##### (2) 新学科開設プロジェクトチーム

愛知県立惟信高等学校に本プロジェクトチームを設置し、「地域社会学科」への改編の実施主体とする。

##### (3) PTA・学校評議員・同窓会

「地域社会学科」への改編に向け、既存のPTA、学校評議員及び同窓会からの意見を、特色・魅力あるカリキュラム及び教育方法の開発に取り入れる。

##### (4) 運営指導委員会

外部有識者及び愛知県教育委員会担当指導主事等を構成員とする。年に3回開催し、専門的見地から指導、助言、評価を行う。

##### (5) コンソーシアム

「地域との協働による高等学校教育改革事業（グローバル型）」で連携を呼びかけた機関を母体とする。年に3回の定例会議を開催し、連携・協働体制を評価し、改善等に向けた協議を行う。

##### (6) コーディネーター

コーディネーターは全体を掌握し、必要に応じて調整を行い、学校と地域のステークホルダーによる連携・協働した教育活動の継続に努める。

##### (7) ステークホルダー

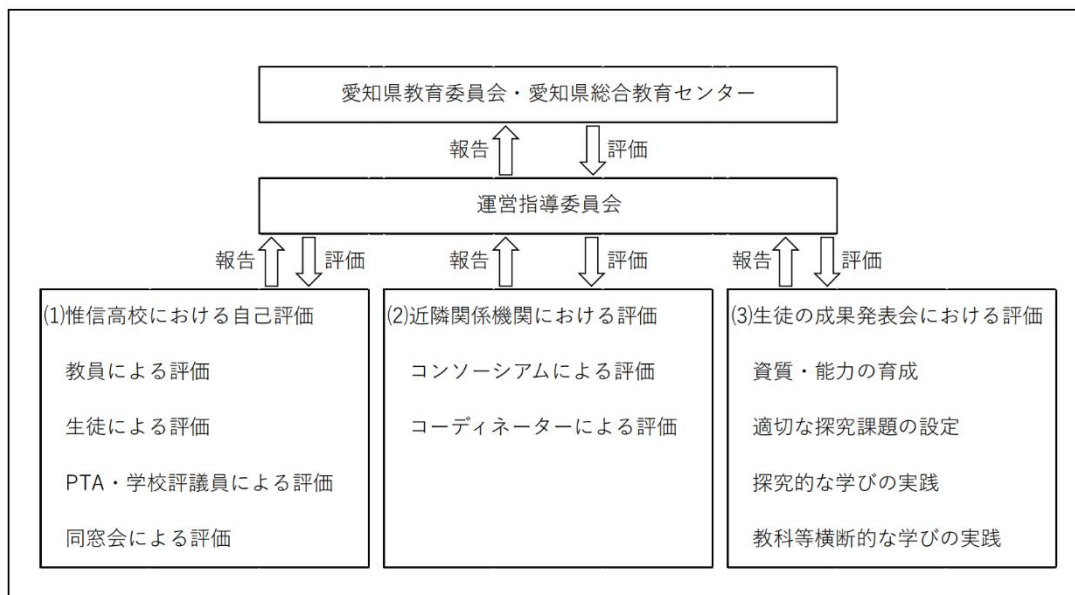
「地域との協働による高等学校教育改革事業（グローバル型）」で連携を呼びかけた、近隣の関係機関等をステークホルダーとする。



## 5-2 管理機関における事業全体の成果検証、評価のための体制、考え方

### 【事業全体の成果検証及び評価のための体制】

下図のとおり事業全体の成果検証及び評価のための体制を構築する。



### 【事業全体の成果検証及び評価の考え方】

次の3つの方策において、定量的・定性的調査を行うことで、事業全体の成果検証、評価を行う。

#### (1) 惟信高校における自己評価

惟信高校において、教員、生徒、PTA、学校評議員及び同窓会を対象としたアンケートによる評価等を基に、本事業の取組について自己評価をまとめる。運営指導委員会において、惟信高校の自己評価の妥当性について検証する。

#### (2) 近隣関係機関における評価

コンソーシアム構成員及びコーディネーターを対象とした生徒の資質・能力の伸長についてのアンケートによる評価等を実施することで、近隣関係機関からの評価とする。運営指導委員会において、近隣関係機関における評価の妥当性について検証する。

#### (3) 生徒の成果発表会における評価

年1回開催する生徒の成果発表会について、生徒、教員、コンソーシアム構成員、コーディネーター、地域住民及び愛知県教育委員会等が参加し、生徒の学びの深まりについて、次のような観点で評価する。評価結果等については、ウェブページに掲載する。

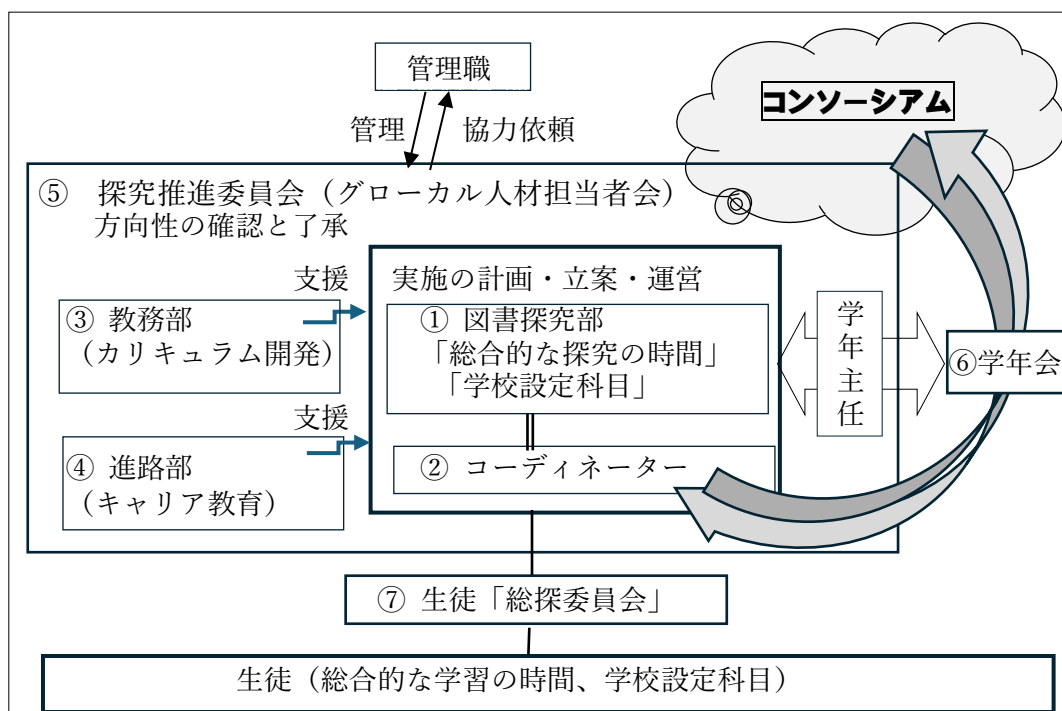
- ・生徒の研究が、資質・能力の育成に資する内容になっているか
- ・生徒の探究課題の設定が適切な内容になっているか
- ・生徒による探究的な学びが実践されているか
- ・生徒による教科横断的な学びが実践されているか

#### (4) 管理機関における事業全体の成果検証及び評価

(1)、(2)及び(3)の3つの方策を踏まえた運営指導委員会からの検証報告を受け、事業全体の成果検証、評価を行い、改善の指針を示す。

## 6 実施体制

### 6-1 校内の運営体制



- ① 図書探究部  
コーディネーターの助言を受け、「総合的な探究の時間」を計画・立案する。各学年に1名ずつ所属する部員がその実践の中心となる。
- ② コーディネーター  
「総合的な探究の時間」「グローバル探究科」の活動の3年間の取組の概要を、図書探究部とともに計画・立案、具体的な実践活動をマネジメントする。特に、地域の方々との生徒交流の方法、円滑な実践を支援する橋渡しの役割の中心を担う。
- ③ 教務部  
「探究推進委員会」での運営方針を受け、教科主任会とともにグローバル探究科の「学校設定科目」や、普通教科と「総合的な探究の時間」の接続に資する「学校設定科目」等のカリキュラム開発を進める。
- ④ 進路指導部  
キャリア教育を担う中心分掌として、グローバル探究科・普通科の探究活動についてインターンシップ等を含めて支援する。
- ⑤ 探究推進委員会（グローバル人材育成担当者会）  
教務主任、進路指導主事、図書探究部主任・部員、コーディネーター、学年主任から組織された委員会であり、①②の計画・立案の方向性を確認・了承し、グローバル人材の育成と生徒の自信の創出に向けた教育を推進する。
- ⑥ 学年会  
図書探究部の立案した計画を学年会として実践する。
- ⑦ 生徒「総探委員会」  
「総合的な探究の時間」実践の生徒リーダーとして、その役割を自覚し、運営の一端を担う。

## 6-2 運営指導委員会

所属	氏名	主な実績
愛知淑徳大学	加藤 智 (運営指導委員長)	文部科学省「総合的な探究の時間」調査官
高木学区区政協力委員長	工藤 清	長く地元町内会をまとめ、幅広く小・中学校との関係を構築
地元中学校(宝神中学校長)	村瀬 圭二	学校評議員を務め、本校の現状への理解が深い
矢野建設株式会社	矢野 雄嗣	地元企業社長、地元密着型の事業展開とともに世界に目を向けたグローバル企業
フィリピン民族舞踏団「母なる大地の子どもたち」理事 社会福祉法人恵育会評議員 椋山女学園大学・椋山人間学研究センター環境と人間プロジェクト研究員 株式会社ミライクエスト専務取締役	上田 敏博	青年海外協力隊員を経て。国際NGO「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」の業務を通じてフィリピンの復興・開発支援に携わる。1998年よりフィリピン政府登録NGONGO「ライズエイジア」を設立、20年間フィリピンに在住し、2013年から2016年までJICA中部に勤務。現在もフィリピン支援プロジェクトに参加し、多文化共生社会推進のために活動する。
愛知県教育委員会	橋本 具征	高等学校教育課 課長

### ○ 運営指導委員会が取り組む内容

地域に根ざした事業主、文部科学省調査官も兼務する大学教授、国際経験豊かな公益社団法人職員、区政協力委員長等によって組織し、次の3点について、それぞれの専門的知見から学校に対して指導・助言を行う。また、事業の成果についての検証と評価を行い、次年度への課題を提示する。

- (1) 「総合的な探究の時間」及び「学校設定科目」における学びの充実
- (2) カリキュラム開発の進捗
- (3) 教育活動と地域社会学科の目的・目標の整合性

### 6-3 コンソーシアム

所属	氏名	主な実績
名古屋市港区役所	吉田 尚司	地域力推進室室長、地域推進の司令塔
名古屋市港防災センター	大場 玲子	同センター長
名古屋市港区社会福祉協議会	平野 和彦	同所長、同事務局長
地元町内会長、高木学区区政協力委員長	工藤 清	長く地元町内会をまとめ、地元の様子を的確に把握している
地元企業	松本 崇義	(株)松栄運輸代表取締役社長 名古屋市青年会議所理事
NPO 法人 藤前干潟を守る会	亀井 浩次	同理事長
愛知県立惟信高等学校同窓会	大口 雅章	長年にわたり同窓会長として本校を支える

#### ○ 連携・協力体制の構築の考え方

本校における本学科設置による取組の中心は、「総合的な探究の時間」を教育課程の軸とした教育活動の実践であり、生徒が地元地域を肌感覚で感じ、地域社会の方々との交流を通して、「実践力」と「自立型思考力」を育成するところにある。従って、全校で実施される「総合的な探究の時間」については、生徒の主体的な行動に重点を置き、コーディネーターを中心に、区役所や警察署といった大きな枠での協力体制を依頼するに止める。その上で、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」で連携を図り、協働した関係機関である防災・福祉、地元企業・地元町内会、地元環境団体との連携によるコンソーシアムを、生徒の探究活動をさらに推進する可能性のある関係機関を加えて再構築して、より多くの生徒の学びを支援する体制を整備していく。

#### ○ 連携・協力体制の構築の方法

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」で構築したコンソーシアムの母体とし、年3回の定例会議を開催することで、具体的な連携・協力体制を再構築する。

定例会議では、当該年度を含めた今後の行事予定を相互に確認し、連携・協力が可能な地域活動の内容を提案し、実施に向けた計画を立てる。計画の際には、その活動が地域社会学科の設置目的やカリキュラムの目標に沿っており、地域貢献に繋がる計画であることを、運営指導委員会の助言を受けながら確認する。なお、第3回の定例会議では、年度内の活動の評価・反省点等を確認するとともに、次年度に向けた改善点を整理していく。

## 6-4 コーディネーター

梶本 郁二（個人事業主）

- 主な実績 1999年度、愛知県立五条高等学校が「総合的な学習の時間」の研究指定校として先行実施した際、実践の中心として企画運営を担当。内容は「21世紀のプランナー」と題し、生徒が個人またはチームで、興味あるテーマを社会人の協力を得て研究発表する実践等。

2014年度、愛知県立名古屋西高等学校進路指導主事として、生徒の進路探究・成長支援として、「総合的な学習の時間」の再構築を提案し、1年生の年間授業「360人の主張」を企画立案し、総合学習部の主任を兼任し実践運営。以降、現在まで実践は継続しているが、毎年協力していただく社会の個人-企業団体は70社を超えている。

- コーディネーターが取り組む内容（勤務形態を含む）

### （勤務形態）

管理機関である愛知県教育委員会が、当該者を会計年度任用職員として任用する。週3日（計15時間）出勤して図書探究部にて会議を行うとともに、「総合的な探究の時間」で協働する。また、週2日は在宅でワークシート作成等の業務を行うとともに、オンラインで支援する。その他、外部協力者との訪問打ち合わせなどに従事し、合計週29時間の勤務を行う。

### （取り組む内容）

- ① 「総合的な探究の時間」の活動の3年間の取組の概要を、図書探究部とともに計画・立案、具体的な実践活動を支援する。
- ② 地域探究学科の学校設定科目の計画・立案、実施に取り組む。
- ③ 地域の方々との生徒交流の方法、円滑な実践を支援する橋渡しの役割の中心を担う。
- ④ 実施日程や活動内容の詳細を連携機関・大学と調整し、学校と共有することで、年間指導計画の作成を支援する。
- ⑤ 連携機関・大学からの要望・助言と学校からの要望を調整し、円滑な実施に寄与する。
- ⑥ 地域の特色を活かした教育活動をより充実させるために、新たな連携機関・大学との調整や協議を図る。
- ⑦ 小中学校で学んだ各教科の基本事項を本質的かつ興味深く学ぶことのできる授業方法を模索し、本来の学びの意義を感じさせられるよう、「原点授業」の開発に対する助言指導を行う。

## 7 成果普及のための仕組み

次の方法により、本事業の成果の周知を図る。

- (1) 「総合的な探究の時間」の生徒研究成果発表会の開催  
地域の方々や地域関連機関を招いて、「総合的な探究の時間」の生徒研究成果発表会を開催し、成果の発信をする。
- (2) 「惟信 地元マルシェ」の開催  
地元と協力して開催する「惟信 地元マルシェ」には、文化祭同様、地域住民及び地元中学生を中心に本校の活動を実際に見てもらうことで、本校の取組を発信し、アピールする。
- (3) Web ページや新聞社・地元ホームタウン誌等での公開  
「総合的な探究の時間」の成果発表会や「惟信 地元マルシェ」の様子を業者に依頼して撮影編集し、Web ページ上に公開すると共に、地元新聞社への掲載を依頼する。
- (4) 地域活動報告  
校内向けの「地域活動報告」を作成し、地域社会学科に在籍していない生徒やその保護者にも活動の成果を周知する。
- (5) 他校との連携  
県内で同様の研究を行う学校と連携し、相互に実践報告を行う機会を持つことで互いに刺激し合い、相互に向上する。

## 第Ⅱ章 研究開発実施状況報告

### 1 令和5年度の進捗状況

#### 1-1 図書探究部の活動

本事業への採択が決定された4月下旬以降、コーディネーターとの正式な契約が取り交わせる7月に至るまで、コーディネーターのご好意により「図書探究部」において、本事業に係る準備について会議が行われた。しかし、本事業の活動の中心を一つの校務分掌（図書探究部）内に設置したために、学校業務に係る会議時間以外に、コーディネーターとの協議の場は設定されておらず、年度途中の大幅な時間割変更によって授業時間内での会議時間1時間を捻出し、授業後の会議時間を40分間設定するにとどまった。学校行事等によって、会議を行うことができない週も多く、働き方改革への意識が浸透する中、十分な時間を用意できない現状は、決定的な体制づくりの失敗であったと言わざるを得ない。以降、現在に及ぶまで、すべての負担がコーディネーターにのし掛かることとなってしまった。

本校生徒の主体的活動の可能性を探ると共に、取組の意義を職員で共有することを目的とし、年度当初より図書探究部とコーディネーターが先行実施の構想とその準備に取りかかった。十分な会議時間を確保できない中、コーディネーターの牽引力に支えられて、新たな取組と次年度への準備を進めた。

#### ○ 新学科設立に向けた組織作りと取組内容の概案作成

##### (1) 「全活動の土台構築」(1学期)

- ・「図書探究部」の役割分担及び校内組織の組成
- ・コーディネーター役割連携確認
- ・アソシエイト校での実践を点検総括と本計画との連携模索
- ・「グローバル探究科」設置と「総合的な探究の時間」活動の全職員の根本理解
- ・「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」
- ・コンソーシアムの構築と地域への協力依頼
- ・運営指導委員会開催

##### (2) 「『総合的な探究の時間』の準備的試行」(2・3学期)

- ・新事業に先立ち、3年間を見通した「総合的な探究に時間」の在り方を見直し、1年生は10月から、3年生は9月から準備的試行を行った。(2年生は従来の計画を実施)⇒発表の場として2月「成果発表会」、3月「惟信マルシェ」
- ・ワークシートの作成

##### (3) 「新設学科のクラス数」案の検討

- ・新設学科のクラス数について、その意義と実現可能性(実施準備・教員負担)、また、普通科高校として大学進学を保障できるか、生徒募集上の問題について検討。→「新学科1クラス、普通科6クラス」案を提言

##### (4) 新設学科における「学校設定教科」の検討

- ・職員全体からの意見を求め、図書探究部で集約し、「新設学科のクラス数」と同様の観点をもって検討・提案。探究推進委員会で概案を協議・承認し、年度中も各教科で新設学科のカリキュラムの調整について協議を続ける。→新設学科



の学校設定教科を「グローバル総合探究」「学びの探究」とし、各学年2単位行うこととした。

・次年度、更なる検討を進め、3年間の実施案を作成する。

(5) 「全教員によるAL授業」の研究・研修

・「都市型魅力化プロジェクト『惟信スタイル』」を提唱し、それぞれの教員の創造性と試行錯誤で普通科高校の授業の可能性を探究する。

・・・「学び」の探究に全教員・全生徒で取り組む・・・

主活動…全職員に対して、「AL授業」研究・実践の呼びかけ。

**文科省が提唱する「主体的・対話的で深い学びを生む授業」を  
惟信教員全員で実践しよう！**

・テストの縛りでなく、教科自身の魅力で生徒が主体的に取り組み「深い学び」を生む授業を惟信全体で追及・実践しよう！

・教科の自由闊達な意見交換そして個々の工夫で魅力ある授業を創造しよう！

・年度内に、個人・教科単位の方向性を確立し、皆で試行錯誤しながら授業スタイルを作り上げ、令和7年度新設学科開設に向けての環境を整えよう！

(6) 新学科の名称再検討

・事業の目指す方針をより明確にする名称として「未来探究科」を提案、申請中。

(7) 事業運営体制の一新

・学校全体で事業に取り組む意識改革 事業の協議・検討・実施のための組織・プロジェクトチーム作り

(8) 「アクティブ・ラーニング」ルームの設置 ⇒移動型テーブル・椅子の購入



(9) 今年度の反省 ・次年度の計画検討

## 1-2 探究推進委員会

- 第1回 令和5年5月24日(水)  
(議題)・「本事業・委員会設立の経緯」について  
・コーディネーター紹介
- 第2回 令和5年7月20日(木)  
(議題)・「本年度の目標」について  
・「学びの探究」に向けての調査依頼について
- 第3回 令和5年9月12日(火)  
(議題)・「学びの探究」について
- 第4回 令和5年10月24日(火)  
(議題)・新学科のカリキュラム編成の流れについて
- 第5回 令和5年12月4日(月)  
(議題)・学校設定教科、および、新設学科のカリキュラム構築について
- 第6回 令和6年1月23日(火)・25日(木)  
(議題)・新設学科の学校設定教科・科目およびカリキュラムについて  
・新設学科の名称について
- 第7回 令和6年2月20日(火)  
(議題)・来年度の運営体制について

## 1-3 職員研修

- 第1回 令和5年5月25日(木)  
(議題)・コーディネーター紹介  
・「学びの探究」について
- 臨時職員会議 令和5年8月18日(金)  
(議題)・本事業の全体像について  
・「学びの探究」について
- 第2回 令和5年10月10日(火)  
(議題)・コーディネーターによる講義  
「生徒を主体的に参加させる授業について」  
・研究協議
- 第3回 令和5年11月30日(木)  
(議題)・コーディネーターによる講義  
「生徒の『芯』を育てるための教科の魅力役割」について  
・中堅教諭と若手教諭数人でパネルディスカッション  
「生徒が主体的に参加する授業について」  
・研究協議  
「パネルディスカッションで扱った」テーマについて  
・全体討論

#### 1-4 運営指導委員会

- 第1回 令和5年8月7日(月)  
(議題)・本校の「普通科改革支援事業」への取組について
- 第2回 令和5年12月26日(火)  
(議題)「普通科改革支援事業」その後の進行報告
  - ・新設学科のクラス数についての検討について
  - ・新設学科の設定教科についての協議について
  - ・「学びの探究」の核(「全教員によるAL授業」の研究・研修)について
  - ・本実施に向けた来年度の「総合的な探究の時間」の試行実施状況について
- 第3回 令和6年3月5日(火)  
(議題)「令和5年度事業実施状況総括」
  - ・惟信高校普通科改革支援事業の都市型スタイルの核「生徒・教員全員で取り組む『学び』の探究」について
  - ・令和6年度の校内事業運営体制の変更について
  - ・新設学科の名称変更について

#### 1-5 コンソーシアム

- 第1回 令和5年9月19日(火)  
(議題) 本校が目指す「普通科改革支援事業」
- 第2回 令和6年2月15日(木)  
(議題)「普通科改革支援事業」その後の進行報告
  - ・新設学科のクラス数についての検討について
  - ・新設学科の設定教科についての協議について
  - ・「学びの探究」の核(「全教員によるAL授業」の研究・研修)について
  - ・本実施に向けた来年度の「総合的な探究の時間」の試行実施状況について

## 2 活動実績

### 2-1 先進研究校視察

#### 【視察内容】

カリキュラム開発、事業体制及び校内組織、事業内容、入学志願者の推移、生徒募集への工夫、主体性を育むための取組、教職員の意識改革と事業機運の醸成、学校設定教科・科目

#### 【視察先と日程】

- (1) 兵庫県立柏原高等学校 令和5年10月12日(木)
- (2) 長崎県立松浦高等学校 令和5年12月1日(金)
- (3) 宮崎県立飯野高等学校 令和5年12月21日(木)

#### 【視察所感】

先進研究校として、上記3校を視察した。ご多忙の中でのご対応に心より紙面を借りて感謝申し上げたい。3校いずれも地域からの強力な協働体制のもと、普通科改革事業が進み、見事な成果を収めていた。都市型の改革を目指す本校にとっても、大いに参考になることが多かった。

その第一は、本事業「普通科改革支援事業」以前から学校が自らの手で改革を成し遂げようとする主体的な取組があったこと、その上で本事業を活かし、地域との協働による人材育成を目指して、取組みが行われていることである。本校においては、事業採択後、前校長の「惟信愛」との呼びかけが深くは浸透していなかった現実が浮き彫りとなり、話し合いを重視するコーディネーターの意図をいまだ理解していない職員も散見されている。それぞれの職員はそれぞれにおいて努力しているが、チーム学校としての参画意識を持って、取り組むべきレベルに到達しなければ、事業の成功はあり得ないと感じ入った。

### 2-2 「総合的な学習の時間」の取組

前年度、新学習指導要領の施行に向けて、本事業に先立つ「人材育成委員会」で「総合的な探究の時間」の見直しが図られていた。その結果、どの教員にも指導が可能となる市販の教材を用いた指導を行う3年間の指導計画ができ上がりつつあったが、機を同じくして、本事業申請への意志確認がなされた。申請に際し、本事業に採択された場合は、「総合的な探究の時間」を見直すこととした。

本事業での採択決定は4月25日であり、正式契約を結ぶにはさらに日数を要するため、本年度は前年度計画に基づいて「総合的な探究の時間」を開始した。そうした中で、本事業の方向性を検討するとともに、「総合的な探究の時間」についても検討がなされ、第1学年は市販の教材に一応の区切りがつく10月を目途に、第3学年については9月2学期当初から、新学科開設年度から行われる「総合的な探究の時間」の先行実施を行うこととした。第2学年については、年間を通した外部機関との申し合わせがあったために、その先行実施を見送った。

先行実施となった第1・3学年の具体的な取組の詳細については、第三章「事業検証と次年度に向けて」4「コーディネーター考察」において後述する。

## 2-3 成果発表会

- 1 目的：これまでの探究活動の成果発表を通して活動を振り返るとともに、他の探究活動の成果を知り、見識を広げる。
- 2 日程：令和6年2月8日（木）5・6限
- 3 参加者：1・2年生（全員）
- 4 場所：本校体育館（惟信館）
- 5 内容

### ★1年生探究活動のテーマ

・10月から「地域の宝探し」をテーマに探究活動開始。生徒が自分で考え、実行する。生徒主体活動の象徴としてクラスの活動運営は、生徒総探委員が担当。

#### ≪活動内容≫

- ① 1年生280人一人一人が一押し「地域の宝」を探し、皆に紹介。
- ② 個人発表から「チームの宝」選抜。チーム協力で、宝の調査・研究。
- ③ 宝関係者への訪問取材、調査研究の協議・まとめ、ポスター作り・クラス発表

#### ≪発表形式≫

壁に発表資料を掲示しておき、発表班以外の1年生と2年生は随時興味関心の高いものを選び、ポスターを見ながら遊覧し、発表を聞く。



教室での1次発表の様子①



教室での1次発表の様子②



成果発表会の様子①



成果発表会の様子②



## ★2年生探究活動のテーマ

- ・「港区改善計画」として、地元をよりよくするための改善案を計画する。
- ・他と協働しながら地域に関心を持ち、社会の在り方を知る。
- ・課題発見能力・情報収集力・課題解決力・プレゼンテーションスキルの習得を目指す。

### 《活動内容》

- ① 地元の問題点を考え、社会の組織体系を模倣して「課」に分かれ、「課」の中でも班を作る。(環境課・市民生活課・企画経理課・交通課・環境文化交流課・防災危機管理課・広報課)
- ② 班員同士で協力し、課題解決案を PowerPoint を使ってプレゼンテーション
- ③ 産(地元産業等への訪問)・官(港区役所からの助言)・学(大学の先生からの講義)から協力していただき、学びを深め、再度プレゼンテーション。

### 《発表形式》

- ・課内発表会での優秀発表者が舞台上で代表プレゼンテーション。



①班ごとに地元の課題を挙げ、原因を調査言をもらう



②中間発表を港区役所に提出し、助



③企業等を訪問し、インタビュー



④成果発表会

## 2-4 惟信マルシェ

- 1 目的：発見した地元の宝に実際に触れることで、地域への理解を深めるとともに、社会人との交流を通して生徒の生きる力を育む。また、本校の探究活動の一端を地域へ発信する。
- 2 日時：令和6年3月15日（金）
- 3 場所：本校敷地内屋外スペース及び体育館
- 4 内容：生徒会主導で毎年開催してきた本校伝統の文化祭「柊祭」の模擬・ガーデンのイメージ。地元と協力し、地元・本校合同マルシェを地域住民、近隣中学生を招いて開催する。屋外でテントを用い、ご協力を得た地元の方と招待したクラスが協力して合同で運営（1クラス1ブース1発表を予定）。一方体育館で、「地元の宝」各クラス発表を掲示や解説などで紹介する。（本報告書の表紙に写真を掲載）

（参考） 体験入学案内中学校 39 校、及び、近隣住民約 950 世帯に配布したチラシ

**愛知県立惟信高校 地域交流イベント**

# 惟信マルシェ

開催日時 3月15日(金)午前11時～午後2時  
受付：惟信高校正門脇（このチラシを入場券とします）

## 総合的な探究の時間 「地元の宝探し」

本校1年生が「総合的な探究の時間」で取り組んだ地域探究活動「地元の宝探し」の総仕上げの発表イベントが今回の「惟信マルシェ」です。

「地元の宝探し」…の概要

- ・1年生生徒一人一人が、港区、中川区及び自分の居住地の名物・名所等、地元の「魅力的な宝」と感じるものを発掘し、皆に紹介し、探究していく活動。発表過程で皆から多くの賛同を得た「宝」で協働チーム（各クラスで8チーム、学年全体で56のチーム）を構成し、「宝」関係者への訪問取材を含めた調査探究を進め、その「宝」の魅力を発信した。

イベント 発表内容

- ① 代表チームの本校生徒と宝の地域関係者との合同発表  
【宝関係地域協力者】
  - ・荒子川公園ガーデンプラザ・港警察署・弥富民族資料館（金魚）
  - ・野崎採種場（白菜）・名古屋港海洋博物館・国土交通省庄内川出張所
- ② 約50の協働チームによる宝のPRポスター掲示発表。地元の名物・名所など魅力たっぷりの「地元の宝」の再発見ができます。

★ 惟信高校は創立百周年に向けて、探究活動を中心に位置づけた日本有数の魅力ある高校を目指して再出発します。

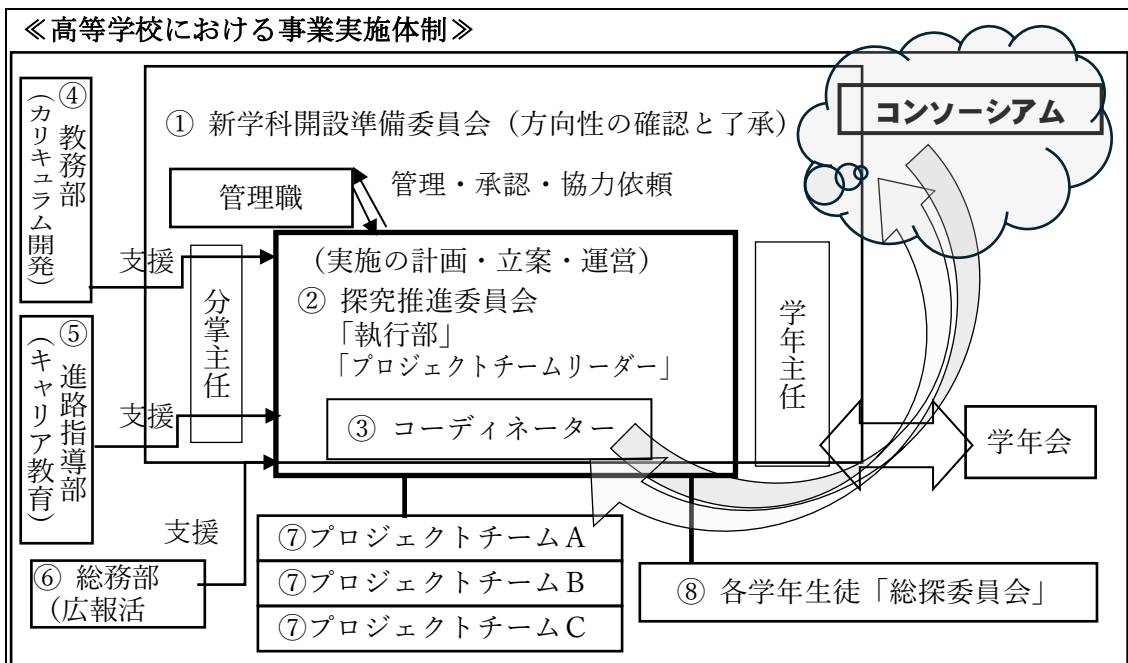


1 本年度の反省と課題（成果概要図）



## 2 事業運営体制の見直し

### 〈高等学校における事業実施体制〉



#### ① 新学科開設準備委員会

管理職、運営委員会メンバー、探究推進委員会メンバー、コーディネーターで組織された委員会であり、探究推進委員会の計画・立案の方向性を確認・了承するとともに、新学科を開設し、グローバル人材の育成と生徒の自信の創出に向けた教育を推進する。

#### ② 探究推進委員会

「執行部」を置き、執行部長のもと、プロジェクトチームリーダー、コーディネーターとともに新学科の方向性を企画・立案する新学科開設準備の中心となるチーム。

#### ③ コーディネーター

「総合的な探究の時間」・「未来探究科」の活動の3年間の取組の概要を計画・立案し、具体的な実践活動をマネジメントする。特に、地域の方々との生徒交流の方法、円滑な実践を支援する橋渡しの役割の中心を担う。

#### ④ 教務部

探究推進委員会での運営方針を受け、未来探究科、及び、相乗効果の見込まれる普通科のカリキュラム開発を進める。

#### ⑤ 進路指導部

キャリア教育を担う中心分掌として、探究推進委員会での運営方針を受け、未来探究科・普通科の探究活動をとおしたキャリア教育を支援する。

#### ⑥ 総務部

探究推進委員会とともに、広報活動を支援する。

#### ⑦ プロジェクトチームA・B・C

探究推進委員会の方針を受け、Aチームは学年主任とともに「総合的な探究の時間」の立案・運営を行う。Bチームは次年度に向けて、学校設定教科のカリキュラム開発を行う。Cチームは「授業改善」のための検討と取組の実践を行う。

#### ⑧ 生徒「総探委員会」

「総合的な探究の時間」実践の生徒リーダーとして、運営の一端を担う。

### 3 学科名の改称に向けて

普通科魅力化都市型スタイルを目指す本校の目指す生徒育成方針に、より適切な名称を協議検討し、汎用性があり、本校の目指す課題解決型探究活動を象徴する「未来探究科」への名称変更を希望している。(中学生への配布予定チラシ案)

夢を見つけ **未来探究科** 夢を育む

地域に根差した様々な探究活動に取り組み  
自分自身、地域・日本・世界の未来を切り開く力を育成！  
『未来探究科』は、君が夢を見つけ夢を育む場です

**新しい普通科のカタチ** 夢に向かう進学を実現する高い学力と実社会を力強く生き抜く実践力を備えた自己の未来を切り開く柔軟なスキルを培う

**総合的な探究の時間** 地域社会と連携した様々な実践に取り組む3年間の充実したプログラムを実践未知の課題への問題解決能力を育成

**学びの探究** 生徒の主体性を重視したアクティブラーニング授業教科本来の魅力を大切に人生を豊かにする「学び」を探究

**本校独自の授業を設定** 社会での実践力に繋がり、未来への可能性を広げる「学ぶ力」を探究する魅力ある授業

**惟信新たな100年の出発** 1925年創立の100年の伝統を誇りに令和日本の新たな教育に挑戦！

 **愛知県立惟信高等学校**  
愛知県名古屋市港区惟信町2丁目262番地



平成15年改訂の高等学校学習指導要領で新たに創設された「総合的な学習の時間」。その愛知県指定研究校の教員として、平成12年に私はその授業の開発に全国に先行して取り組んだ。この授業の文科省の狙いは、激変が予測される国際社会の中で、日本の若者の「生きる力」の育成であった。「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること」と「学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己のあり方、生き方を考えることができるようにすること」にある。このねらいに強く共感し、21世紀のプランナーを目指そうと「プロジェクト21」と題した、社会との連携による問題解決探究型の「総合的な学習の時間」を企画・実施した。手探りの進行ではあったが、生徒は未知の授業に積極的に取り組んだ。

あれから四半世紀、昨年4月よりこの惟信高校にて、普通科改革事業のコーディネーターとして、また探究活動の企画・実施に携わることとなった。授業の名称は「総合的な学習の時間」から「総合的な探究の時間」と変わったが、根本的課題は四半世紀前と全く同様で、子供たちの主体性と自立を育成することである。

この間に世界は、IT革命が起き、ネット社会が進行し、人間の繋がりは一変した。世界の情勢も紛糾し、日本はその波に押し流されるばかりで、国際的にも立ち遅れが目立っている。

2000年の改訂でも、予測不可能な国際社会に自ら考えて行動する若者の育成の急務が唱えられていたが、期待した育成はどの程度達成されたのであろうか。当時の高校生はすでに40歳となり社会の中核となっている。文科省の懸念、及び対策の回答は今の日本社会である。

さて、今年度普通科改革事業に我が惟信高校は採択され、令和7年度の新学科設立に向け、まったくの白紙状態から歩んだ1年であったが、わずかながらも確かな前進はできた。

具体的には、第1学年と第3学年において。2学期より、試行的であるが本校独自の「総合的な探究の時間」の開発、実施ができたこと、次に新設学科の構想の外郭が定まったこと、さらに高校魅力化プロジェクトの都市型スタイルを検討し、全職員が「生徒の主体的参加を元とするAL型授業」に取り組む方針を共有できたことである。

新たな取組を達成するため、必要な第1点は、「理想の確立」であると考えている。学校と言う閉ざされた組織において、新たな取組を進めることは困難であり、それが文科省の改革が難航する要因でもあるが、その解消の鍵は教員の「理想の共有」であると確信する。

私は、以前より、子供たちの「自信の無さ」「マニュアル頼み」を憂っている。その傾向は私が教員になってからの50年、一方的に悪化していると感じている。自分の目指す教育の理想は、子供たちが自分で考え、自立した生き方を獲得することである。現在の日本でそれを阻む要因は多い。日常に実感が薄いことである。

点数至上の低年齢化、ネット社会の進行からの人間関係の希薄さも、子供たちを虚構の世界に引き込んでいる要因であろう。虚構に生きることで、彼らは生き方をマニュアルに求め、周りから外れないことに強く囚われている。

学びはそれ自身に喜びや価値があり、その魅力で子供たちの感性や真理への探究心を培う力を持つ。テストの結果が主目的にあることが、パターン習得の効率に向かわせ、「学びの本質的理解」に必要な試行錯誤、失敗の克服、目前の課題を自力で解決する機会を奪っている。

そうした考えのもと、私の「総合的な探究の時間」の構想は、既存の授業の枠に収まらないことを基盤とする。

#### ○ 構想の要点

- ・教科書がない
- ・点数や段階的評価を持たない
- ・教員による先行的導きをしない
- ・研究対象を個々が選ぶ
- ・学校の枠を越え、社会に活動の場を求める
- ・協働作業の重視
- ・失敗をさせることを恐れず、試行錯誤の経験を大切にする
- ・相対的なレベルアップでなく、自分の精一杯、殻を破ることを促す
- ・個々の興味・関心を基に、楽しく取り組むことを大切にする
- ・学校の置かれた環境や生徒の実態に即した活動を優先する

今年度第3学年9月、第1学年10月より実施した「総合的な探究の時間」の進行を簡単に紹介し、次ページより、その各授業のために作成したワークシートの抜粋を掲載する。

#### ○ 総合的な探究の時間 授業進行の概要

- ① はじめの授業で、学年オリエンテーションを実施。生徒に取組の概要、ねらい、取り組む姿勢についての指導・説明。
- ② 授業は、2名の探究委員が運営し、手作りワークシートで実践に取り組む。

#### ○ 今年度総合的な探究の時間 先行実施の内容

##### ★ 第1学年 題名「地元の宝探し」

- ① 1年生一人一人が、地元の名物・名所等「地元の宝」を一つ探して、クラスの皆に紹介。各クラスで、賛同者の多い8つの宝のチーム結成。7クラスで56チームとなる。
- ② それぞれの宝について、チームで宝の内容、良さを調査・研究、協議。そして、宝について良く知る人や機関などを調べ、生徒自ら、電話で取材依頼を取り付け、チームで訪問し、宝の詳しい内容・歴史・裏話等を取材。
- ③ 訪問取材の内容も加え、ここまでの探究結果を各チーム3枚のポスターにまとめ、各クラス内で発表。そして、最も賛同の得た「地元の宝」クラス代表を決定。



- ④ クラス代表の「地元の宝」の対象の人・機関に、選抜チームから「惟信マルシェ」での合同発表の協力依頼。どのような発表をするかチーム、宝協力者と相談を重ね、マルシェのブース発表へ。(生徒たちがイベント内容を宝協力者と打ち合わせの上進行。)

★ 第3学年 題名「学びの探究」

- ① 【第1ステージ】個々で最も興味がある教科を選択。その理由、その魅力をまとめる。興味のある教科毎に、クラスを再編成し、その中で、5人1組のチーム形成。
- ② 持ち寄った教科の魅力をチーム内で発表。互選での優れた発表を元に研究課題を設定。
- ③ 研究課題を協議・探求し、レポートにまとめる。
- ④ 編成クラスでチーム毎に発表。互いの評価で「教科の魅力」優秀プレゼンを決定。
- ⑤ 教科毎の優秀プレゼンをパワーポイントで編集し、学年全体で発表会へ。「総探委員」が運営。
- ⑥ 【第2ステージ】個々で小学生を対象とした教科の魅力を伝えるオリジナル授業を作成。
- ⑦ クラス4ブロックに分かれ、模擬授業。その中から優秀な授業を選出し、クラス全体に模擬授業を実施。

1年生「地元の宝」プレゼン 蟹江尾張温泉



3年生「模擬授業」 ザリガニウイ

# 探究活動 最終章 学びの探究

良い「学び」は、真理との付き合い方を導いてくれる。

この世の中には、寛すべき真理に溢れています。太陽、星、大地、空、海、大気、様々な生物、色とりどりの植物・果実、火や水、光、熱、電氣、美しい風景や調べ、民族、歴史、心、生命……。人はこの真理を見つけ、融合することで現在の文明文化を発展させてきました。

「学び」は真理の入り口に我々を導いてくれ、その融合の方法を手解きしてくれる。良い「学び」こそ、我々の人生を充実させ、豊かにしてくれる礎である。真理との融合が、生きる世界を話し、自分を信じる力となる。君も世の中を、未来を発展させる良い「学び人」となりました。この機会に、学校の日々の授業や学習との向き合い方も考えてください。

ワークあなたはどの教科・科目に最も興味関心が深いのですか？

① 国語 ② 数学 ③ 英語 理科 (④物理・⑤化学・⑥生物・⑦地学)  
 社会 (⑧地理・⑨歴史・⑩公民)  
 実技 (⑪音楽・⑫美術・⑬体育・⑭家庭科・⑮情報)

記入 番号

「学び」の探究活動のきっかけとします。生まれてからここまでを振り返って

ワークあなたがその教科で最も印象深い「学び」、感動した「学び」の体験は？

「学び」の内容 (他の人に伝わるようにできる限りわかりやすく具体的に書いてください)

---



---



---



---



---

その駅・理由

---



---



---



---

次回の内容を仲間発表してもらいます。各自の発表が今後の探究活動の基になる可能性があります。特に立派なこと、カッコいいことを書く必要はありません。本当のことを素直に丁寧に書いてください。探究活動は行動自体に価値があります。自分のため、周りの仲間のため、誠実に取り組んでください。

# 惟信探究

3年9月  
 総合的な探究の時間  
 組 番

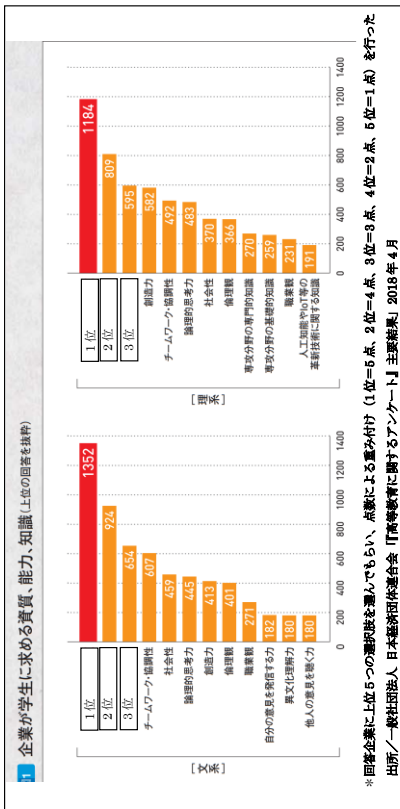
小・中・高12年間、長く学校に通ってきた。君たちのここまでの人生、成長は学校生活が中心でした。あと半年余りで、皆はそれぞれの新しい道に旅立っていきます。新しい道で今までと大きく違うのは、自分の考えで道を選び、自分の意思で進んでいく行動が増えるということです。これまで様々なことを学んできましたが君たちがどう役立っているでしょう。今後の人生でよりよく成長するために、豊かに生きるため、「学び」とうまく付き合いっていくことはとても大切です。

# 学びの探究

最後の探究活動は、その「学び」を探究します。  
 12年間の仕上げに今一度「学び」と向き合みましょう。

テーマ1 探究って何?! 今更だけど探究活動の本質を再確認しよう。

下の表は「企業が学生に求める資質、能力、知識」について経団連が実施した調査の上位の回答を抜粋したものです。文系、理系共に、第1位「〇〇〇」が圧倒的にトップとなりました。このベスト3は、文理共に同じですが、実はこの3つの要素こそが「探究活動」で成長を目指す重要な資質・能力です。特にこの1位の資質は社会で生き抜く最大の力となります。さてベスト3は何でしょう。ちなみに上位にランクされている協調性や社会性も探究活動で養うべき大切な資質です。



\* 同企業業に上位5つの選取肢を並べた。企業による重み付け(1位=6点、2位=4点、3位=3点、4位=2点、5位=1点)を行った。出所/一般社団法人 日本経団連体連会「高等学校に携わるアンケート」主要結果、2018年4月

記入 第1位 ( ) 第2位 ( ) 第3位 ( )

「探究」は、高校でも大学でも、今の教育界で、将来を担う人材育成に最も重要とされている活動です。  
 「自ら課題を見つけ、自ら考え、自ら行動する。」-「総合的な探究の時間」の元である「総合的な学習の時間」が、平成の初めに実施された時から、この取組で生徒が目指すべきメインテーマです。残った高校の時間、将来の自分に期待して、探究活動に唯信生全員で積極的に取り組んでください。



3年9月 第2回  
総合的な探究の時間  
組 番

# 惟信探究

## /学びの探究 共感会

本日の一番のポイント「話す台聴く」  
心を込めて話し、長く聴き、共感し合いましょ

君の発表を元に、自分の好きな「教科」の魅力を再発見し、探究し、みんなに広めよう。

皆が、**最も印象に残る「学び」**は、どんなことでしょうか。  
今日、君はどんな話をしてくれるのでしょうか。聴くことができるでしょう。君たちは、「学び」については小学校以来10年以上の経験があるベテランです。頭にも心にも「学び」の記憶や思い出が一杯溢れかえっているでしょう。いろいろな知識や感動との出会い、「学び」は人生を豊かにし、君を幸せにしてくれる最高の贈り物です。

そこで、改めて君に問います。**君は勉強が好きですか？**  
最高の宝物である「学び」が、いつの間にか勉強として「やらされている」点数のために「やらなくてはいけない」と受け身になってしまっていないでしょうか。後、半年の高校生活、次のステップで、またこれからの長い人生で「学び」とうまく付き合っていくために、この機会に「学び」の魅力を振り返りましょう。今日の同じ教科が好きな仲間との話し合いがスタートです。大切なのはやはり「主体性」です。**思いっきり元気に話してください。そして聴いてください。**

**今日の流れ** 今日のを「共感会」と呼びます。皆の発表から最も共感できるものを選び、それをさらに深め、**掲げて教科の魅力の探究活動につなげます。**

- I. まず、この総探の時間のため、皆のため、総探委員を引き受けてくれた仲間に感謝して、話をしっかり聞いて、指示に従ってください。
- II. 各班で3名から4人のチームで着席していますが、そのメンバーが今日の「共感会」の仲間です。司会は、その班の中で一番クラス番号が大きく出席番号も大きい人が受け持ってください。  
司会者は会の進行を理解し、時間を管理・調整し円滑に進めてください。  
「共感会」の進行

- ① 名簿の上の生徒から順に、ワークを皆に発表します。一人の持ち時間約4分。(2～3分発表者が話し、残りの時間で他のメンバーが質問や感想を)残りのメンバーはしっかり聴きながら、話の要点を裏のシートに記入する。

② 全員の発表が終わったら、MIP(mottomo innsyoutekina presentation)を選んでください。皆の発表が終わった時点で、それぞれが自分以外の発表に共感度を記入。最も共感が出来た発表に◎ 2番目に△を付けてください。記入後、用紙を一旦司会者が集め、◎3点、△1点で集計し、高い得点者をMIPとして発表してください。同点者の場合は、司会者の判断で決定してください。

次回(2週間後)総探の時間はこのMIPの発表を元にして、班単位で教科の魅力を探る活動を実施してもらいます。班のメンバーはそれぞれで、班のMIPをどのように深め、広げるかの案を考えておいてください。

③ チーム全体発表 ここからは探究委員が司会運営する。

A班から順にMIPの発表者が、今度はチーム全員に向けて自分のワークを熟く語ってください。その教科が好きな人の集まりです。皆でその教科の魅力を共感し、拍手や激励などして会を盛り上げてください。

(            ) さん	共感度
(            ) さん	共感度
(            ) さん	共感度

自分への助言や全体の発表で気が付いたことなど、今後の発展のため、メモしてください。

発表時間は、1～2分程度ですが、委員が残り時間から計算し、うまく時間管理して進行してください。時間が無くなれば、途中で打ち切りを。

## 教科の魅力を、 感動をみんなで共感しよう！

# 惟信探究



3年9月 第3回  
総合的な探究の時間  
組 番

テーマ決定！ さあ、探究です。

「学び」の探究

MIP 発表を元に、より深め、より広げられる「探究テーマ」を決定し、  
班メンバー全員で「学びと教科の魅力」を探究しよう。

この取り組みの目的を再確認します。

- ・ 惟信の仲間、後輩、日本に「学び」及び「この教科」の魅力を伝える！
- ・ 「学び」を探究する経験で、今後の人生で「学び」と豊かに生きる！
- ・ 探究活動に真剣に取り組み、自ら考え、自ら行動する主体性を獲得する。

## 今日の流れ

本格的に「学びの探究活動」に取り組みます。

班ごとで、「MIP を中心に各自の印象に残る学び体験」を元にした各教科の魅力を探る活動を進めます。 **回会を決めて、全員で意見交換をすること。**

1. 〈5分～10分〉協議の上、**探究テーマを決定**。…MIP の印象体験（他の班員の体験も参考にして  
もよい）との関連から、研究にふさわしい広がりを持ったテーマを柔軟に考える。

〈十分協議してください。体験が元になり、研究の幅が広がる興味あるテーマを〉

- ② 〈10分程度〉各自で、タブレットなどを利用して、テーマについての調査、資料収集・分析。  
相談しながら、良い発表の方向性や、興味の持てる内容を探っていく。

- ③ 〈20分程度・残り時間〉テーマにおける「教科の魅力」「理想の学び」について、とことん話し合う。 **本日のメイン活動です。協議の中で新たな発見・更なる探究を！！**

目的は、そのテーマを広く・深く掘りさげ、  
全体に伝えたい「教科の魅力」「理想の学び」を探究すること。  
しっかりと報告書にまとめ、チーム内全体、さらに、他チームに発表  
してもらいます。

- ④ 次回（10.5）の探究の時間で、発表内容・レポートを完成させるため、それぞれで、資料  
収集、分析・調査（ネットデータ、周りへの意見収集）、文章としてのまとめ、等の役割分担  
をして、次回に備える。提出用紙 A3 は次回完成。

## 第3学年「総合的な探究の時間」第3回ワークシート

個人記録用（自由にメモ代わりに使ってください）別紙提出用紙はMIP の人保管  
中間の名前を覚えましょう。

組（ ） 組（ ） 組（ ）

- ① MIP の体験談（詳しく、わかりやすく）

- ② 探究テーマ タイトル【  
研究の方向・内容（皆の意見）】 ←興味引くキャッチ

- ③ 探究内容・協議意見・資料・データ（まとめに繋がる探究内容を。項目を分けて自由に）

- ④ 「教科の魅力」「理想の学び」まとめ

次回のまとめに繋がるよう、各自で調査・研究・文章まとめに取り組んでください。

# 惟信探究

総合的な探究の時間  
3年 組

## 「学びの探究」第2章 「自分の授業を創る。」

今回は「自分は探究活動ができるか？」を自分自身に問いかけて、**精一杯、個人研究に取り組んでください。**

前回の「アドバイスカンファレンス」を受けて、「自分の授業」プランをより良いものに完成してください。今までの会と違い、本日は個人の研究です。  
私語をせずに静かに懸命に作業してください。完成への要点は次の2点です。

- ・次回模擬授業に向けて、進捗を詳しく実感できるよう具体的にプランを作成。（私の授業」完成プランのシートのどの枠も丁寧にびっちり理めてください。）
- ・小学生に「教科の夢と希望を与える」工夫を含めた授業プランを探究する。

### 前回のワークで取り上げた

「より良いものを求めていく姿勢」が「探究」であり、「主体的に取り組む活動」に必要な基盤です。特にこの授業のような、「白紙から自由に何かを生み出していく活動」では、探究の精神が重要なカギとなります。うまくできない人は、苦勞も含め探究経験を学んでください。今の授業作りに対して次の観点到に着目しながら、自分は「探究」の精神を持っているかを客観的に評価しながら、向上の意思を持って、この探究の機会に主体的に取り組んでください。

### 自分の授業作りの自己評価の観点

- ・小学生にとって楽しい授業か？
- ・完成度は？
- ・この2つを基本として、プラス3つの観点
- ・「教科の魅力が伝わっているか」
- ・「オリジナリティ」
- ・「生徒の主体的参加の工夫度」を元に自分の授業プランを自己評価し、より良いものを創意工夫してください。

### 今後の活動（12月以降）

クラスを8人から10人の4つのグループに分け、そのグループの他のメンバーを生徒として、次回の授業2回（12月7日、14日）で半数ずつ、模擬授業の形式で発表してもらいます。クラス皆で楽しく意義のある授業発表会を実施してください。その際互いに授業を評価します。

模擬授業の時間は一人（8分～10分）を予定しています。評価の良かった発表は、クラス全体や先生方にも紹介できる機会を予定しています。

皆の創造力溢れる授業が、惟信生一人一人の今後の「学びの探究」につながることを願っています。

「私の授業」完成プラン 提出用（本日個人でしっかり完成、次回グループ発表に備える。）

## 私の授業プラン

教科	対象学年	単元・項目
授業の題名（一言で内容が伝わるキャッチな題名）		
具体的な授業内容（発問プラン）・授業進行（体育などの実技系は、授業での指導が伝わるように）		
この授業を通じて、伝えたい教科の魅力。		

# 惟信探究

総合的な探究の時間  
3年 組



人生初の「白紙から自ら創り出す取り組み」、どれだけ主体的に取り組めたか？ それが、この活動のカギであり、これが今後の人生の探究活動のスタートです。良いスタートが切れましたか？ 自分と向き合って、活動を振り返ってください。

## 本時の活動

1. 担任の先生から配布された用紙に従って、タブレットでアンケートに回答してください。キキパキと15分～20分程で済ませるように。
2. 下の「ワーク」の文をしっかり読み、自分の反省をきちんと記録してください。全員、提出してもらいます。探究活動の最後の取り組みです。
3. 余った時間で、タブレットで各クラスの優秀発表者の動画を見てください。タブレットは本日回収されます。中間の発表を少しでも見てみましょう。

(②を20分取り組みんでも終わらないときは、③に移っても構いません。) ただし、その時は、用紙を持ち帰り、本日に②を完成させてください。必ず、明日、金曜日朝のSTで探究委員に提出するように。

★動画の場所 Teamsより「第3学年R5」に入る。「ファイル」の中の、「総合的な探究の時間『自分の授業を創る』クラス代表作」より、選択する。

## ワーク

探究活動を振り返る。他人の評価でなく、自分の評価が大切です。

### 「学びの探究」について

活動第1章では、自分の好きな教科について、その教科同じように好きな仲間とその教科の魅力について話し合い、グループで発表しました。

【自己評価K1】教科の魅力探究度 教科の魅力を深く、また新たに発見できましたか？

1. 大変よくできた ② かなりできた ③ どちらとも ④ あまりできなかった。⑤全くできていない。

選択番号	(良い点、悪い点を考え、評価・感想を率直な言葉にしてください。)

## 第3学年「総合的な探究の時間」第8回ワークシート

探究活動第2章では、小学生対象『自分の授業を創る』に挑戦しました。

- ・小学生が楽しめる授業か？ さらに3つの観点・「教科の魅力を伝えているか」・「オリジナル度」
- ・生徒の主体的参加の工夫度」を元にまさに「白紙から自由に生み出していく活動」に取り組みました。

【自己評価K2】授業創り達成度 自分なりに十分発想し、満足できる授業が発表できた？

1. 大変よくできた ② かなりできた ③ どちらとも ④ あまりできなかった。⑤全くできていない。

選択番号	(良い点、悪い点を考え、評価・感想を率直な言葉にしてください。)

「主体的に取り組もう」を大テーマとして、この探究活動に取り組んできました。では、どうすれば主体的に行動できるのか？

この活動は、日頃の学校活動とは正反対の「手本書がない」「先生が導いてくれない」「点数という明確な指標がない」自由度が高い取り組みを心掛けました。

手から放たれた風船のように、自由に空を飛んだら、自分はどんなふうに飛べるのでしょうか。一方、自由はある意味倒れくさい。誰かが引いてくれたしールを進む方が楽しい。この活動の中で、自分がどう感じ、どう行動できたか。自分自身に問いかけてください。

【自己評価K3】主体的行動達成度 全ての活動面で、自由を楽しむ主体的に取り組めたか？

1. 大変よくできた ② かなりできた ③ どちらとも ④ あまりできなかった。⑤全くできていない。

選択番号	(良い点、悪い点を考え、評価・感想を率直な言葉にしてください。)

大学や専門学校に行く、社会で働く、社会で動く、社会で生きる。これからの人生で皆が自分の選択で、主体的に生きていく場面はどんどん広がっていきます。今回の活動はすべての始まりです。今後の君たちの活躍に期待します。

## 地域探究 実践活動 「地元の宝探し」

社会活動の第一歩として、自分の育った地元を向けて、探究活動に取り組みます。まず、自分の生きる定元の世界、地元をしっかりと見つめ知ることで、広い社会にこそ未来に力強く踏み出す根っこを育てようという取組です。テーマは「地元の宝探し」です。

我が校を愛してくる地元、君たちが育った街の魅力を再発見し、皆にPRしましょう。

- ・地元とは？(惟信生が7割以上通う港区中川区、及び2つの区以外で自分の住む街(区、市、町))
- ・宝とは？(名物、名所、名人、名産品、名店、伝統工芸、伝統行事、地元農産物、地元産業企業)

その他、有名な、活躍している人、一押しのお店、驚きの事実・スポット(etc) 皆に紹介したい物や場所、自慢できる物、特技を持った人など、地元や自分の住む街の宝を発掘し、深く調査・研究し、皆に発表してもらいます。探究活動の中では、実際にその場所に訪れ、調査やインタビューに取組む活動も予定しています。

**探究活動までの流れ**

次回探究授業(19日)に、クラスでグループに分かれ、「私の地元の宝」を発表してもらいます。そのグループで、最も興味深い「チーム探究 地元の宝」を互選で決めます。下の枠に自分の発表を用意してください。チーム探究に選ばれた宝を中心に、クラス皆で時間をかけて詳しく探究活動(調査、訪問研究、まとめ、発表)に入ります。

**はじめの「私の地元の宝」探しについてのルールと要旨**

**絶対ルール**

- スマホやネットの利用の調査は禁止します。するいと考えてください。自分もともと知っていること、または、親や兄弟姉妹などの家族、また知人から情報を得ることはOK、むしろ積極的に尋ねてもらってよいですが、その場合も上のように協力者がスマホ利用して得る情報を得ることは禁止です。
- 今後の詳しい探究活動では、ネットなどを利用しますが、初めだけは自分からまたは人を通しての情報を得てください。
- 他人に迷惑をかけた、不快感を与えたり、他とあまりかぶらない宝発見を推奨します。
- 有名なものを選ぶことは重要ですが、他とあまりかぶらない宝発見を推奨します。
- 3学期に「惟信マルシェ」と題して、地元の宝の発表行事を予定しています。マルシェのイメージに合う名物や作物、また名人や行事を紹介することを、少し考慮しての宝探しを歓迎します。

**要旨**

- 有名なものを選ぶことは重要ですが、他とあまりかぶらない宝発見を推奨します。
- 3学期に「惟信マルシェ」と題して、地元の宝の発表行事を予定しています。マルシェのイメージに合う名物や作物、また名人や行事を紹介することを、少し考慮しての宝探しを歓迎します。

★「私の地元の宝」初めの活動です。地元の魅力を、素晴らしい宝に伝えましょう。丁寧に書く。

宝について 内容を詳しく

この宝をどのように知ったか?

自分が推すポイント 理由

## 惟信探究 総合的な探究の時間 1年10月 組 番

### 地域探究

惟信高校は、来年初立100年を迎える地元を愛される伝統校です。君たちのお父さんやお母さん、さらにお爺さん、おばあさん、もしくは知人の方が惟信高校で学んだ人も多いのではありませんか、多くの卒業生が、地元酒区や名産品、そして日本で活躍し、母校を応援してくれています。また、先日君たちが取組んだ終業式にも、地元の中学生、そして近隣にお住みの方々が多く訪れて、一緒に終業を盛り上げてくれました。コロナの影響で久しぶりに終業に参加出来たことを本当に喜んでいただけようです。君たちは、小学校中学校のそして高校1年生、合わせて10年間の学校生活を経て、まもなく高校を卒業し、大学、そして社会人となっていきます。その準備は出来ていますか。ここからの探究活動は、君たちが社会へ視野を広げ、社会と繋がる実践活動が中心となります。学校の外の世界、先生以外の大人と触れる貴重な体験をしてもらいます。今後の君たちの成長の良い機会となるよう願います。

**テーマ1 探究って何?! 探究活動の本質を再確認しよう。**

下の表は「企業が学生に求める資質、能力、知識」について経団連が実施した調査の上位の回答を抜粋したものです。文系、理系共に、第1位「○○○」が圧倒的にトップとなっています。このベスト3は、文理共に同じですが、実はこの3つの要素こそが「探究活動」で成長を目指す重要な資質・能力です。特にこの1位の資質は社会で生き抜く最大の力となります。さてベスト3は何でしょう。ちなみに上位にランクされている協調性や社会性も探究活動で養うべき大切な資質です。

**【文系】**

1位	1352
2位	924
3位	654

チームワーク協調性 607

社会的思考力 459

読解力 445

倫理観 413

論理的思考力 403

職業観 271

自分の成長を促す力 182

異文化理解力 180

他人の意見を聴く力 130

**【理系】**

1位	1184
2位	809
3位	595

チームワーク協調性 582

論理的思考力 483

社会的思考力 370

倫理観 346

職業観 270

専攻分野の専門知識 259

異文化理解力 231

他人の意見を聴く力 191

※ 同僚企業に上位5つの選取球を選んでもらい、点數による重み付け(1位=6点、2位=4点、3位=3点、4位=2点、5位=1点)を行った出所/一般社団法人 日本経済団体連合会「高等教育に関するアンケート」主要結果 2018年4月

記入 第1位 ( ) 第2位 ( ) 第3位 ( )

「探究」は、高校でも大学でも、今の教育界で、将来を担う人材育成に最も重要とされている活動です。自ら課題を見つけ、自ら考え、自ら行動する。→「総合的な探究の時間」の元である「総合的な学習の時間」が、平成の初めに実施された時から、この取組で高校生が目指すべきメインテーマです。今後の高校の時間、将来の自分に期待して、探究活動に惟信生全員で積極的に取り組んでください。



# 惟信探究



総合的な探究の時間 1年 第2回  
組 番

## 地域探究 実践活動 「地元の宝探し」

TLTになろう！ 自分の宝をチームの宝に！ しっかりアピール！

MLT(My Local Treasure 私の地元の宝) → TLT (Team Local Treasure チームの地元の宝)  
今後の活動は、選ばれたTLTのチーム単位で、まとまった活動になります。

- 1. MLT発表 → TLTの選出 + 希望から、TLTのチーム作り (本時 19日)
- 2. チームでその宝の探究活動(その価値・魅力をいろんな視点から深く究める。外部訪問先を決定。)
- 3. 外部研究、個人インタビュー訪問を実施。(業後・土日などを予定)
- 4. 宝の分析・調査。外部研究などを併せて、レポートと発表場示用紙(B紙)の作成。
- 5. レポートと発表場示用紙(B紙)の完成。プレゼンの役割分担、方法を考える。
- 6. TLTクラス発表会。CLT(Class Local Treasure クラスの地元の宝)の選出。(CLTは、この後、何らかの形で全体に広く発表の機会を設ける予定。全てのMLTの探究報告も予定。)

★★★今日の活動——特におココを読もう！★★★  
【MLTプレゼン・TLT選出・活動チーム作り】10月19日

前半 MLTプレゼン(5人1組) → 8人のTLT候補選出  
初めに8つの班に分かれて、MLTプレゼン(5人1組)を実施

★【班の作り方】自分の出席番号を8で割ろう。余りは0～7になります。(8の剰余類) 同じ余りの人5人(6人)で班を作ります。(1班～8班の8つの班)  
(余りは1班、余り2は2班という様に班名とします。余り0は8班)

机の移動(5時間目始まる前に総探委員の指示に従って準備・着席)

授業開始

(前半) MLTプレゼン会(20～28分)

★はじめにじゃんけんできず決定。発表順は出席番号の小さい順とします。

残り4人が質問、疑問をぶつけ、自分の宝こそ、NO1であると協議し合う。

1人 4分以内 (質問・疑問を自由にどんなふうにぶつけよう！)

互いに評価し、(自分以外に1点2点3点4点を与える。評価シート)で、

TLT候補を決定。司会者、すぐに得点集計、総探委員へ

評価のポイント(1～5の順で重要視して、評価を個人の判断で決めてください。)

1. その宝がいかに魅力に溢れているか、皆に自慢したいか？
2. 地元ならではの宝であるか？
3. ユニークで、他とかがぶる可能性が低いのか？
4. 外部研究・訪問先を見つけた、訪問の可能性が高いか？
5. マルチ発表の可能性はあるか？
6. ルール(ネット利用禁止、誰かに不快を与えない)違反ではないか？

\*6と判断したものは、個人で最低評価を与えてください。

切り取り線 (ハサミまたは定規できれいに切り取る。)

自分点数は×を。

(No) 名前	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
点数	点	点	点	点	点	点	点

★★★★今日の活動 続き——特におココを読もう！★★★★

(後半) TLT候補発表 賛同が\*-を募る。(20～28分)

総探委員会 (TLT候補者と宝の簡単な内容を板書)

TLT候補の人が、クラスみんなの前で、プレゼンテーション。1人2分・30秒以内  
全員で面白いと感じ、自分もその宝に乗ろうと感じるTLTを選ぶ。

TLT候補は、皆を引き込むように、賛同者を募る気持ちでしっかり発表！  
(サポーター訪問を一緒に行うので、地域性も含め本場に賛同できる宝を選ぶ。)

★絶対人と相談しない

TLT 賛同シートに、第1希望 第2希望 第3希望 第4希望を選び、記入。

TLT候補一覧と全員の希望用紙を職員室松井先生へ。(総探委員)

原則、チームは3～6名。

希望者のいないTLTは没へ。月曜日までに総探担当教師でチーム作り。

(TLT候補選出メモ) 発表を聴きながら、

班名	出席番号	氏名	宝題名
1班			
2班			
3班			
4班			
5班			
6班			
7班			
8班			

切り取り線は、初めに各自できれいに切る。利用後は自分で保管。

決定したら、このカードに記入して、すぐ総探委員に渡す。班で1枚。選ばれた人記入よろしく。

選ばれたTLT	No	Name
		TLT (題目)

第1学年「総合的な探究の時間」第2回ワークシート②

TLT候補一覧 (総探委員できれいに記入)

1. 組

班名	出席番号	氏名	宝題名
1班			
2班			
3班			
4班			
5班			
6班			
7班			
8班			

賛同カード 自分が一緒に探究したいと思った TLT を選び、数字をきれいに大きく間違えず記入。 TLT に選ばれた人は、第1希望は自分自身に、一応、第2、3希望も書く。	組 番 氏名 第1希望 班	組 番 氏名 第2希望 班	組 番 氏名 第3希望 班	組 番 氏名 第4希望 班	どちらかに○
賛同カード 自分が一緒に探究したいと思った TLT を選び、数字をきれいに大きく間違えず記入。 TLT に選ばれた人は、第1希望は自分自身に、一応、第2、3希望も書く。	組 番 氏名 第1希望 班	組 番 氏名 第2希望 班	組 番 氏名 第3希望 班	組 番 氏名 第4希望 班	どちらかに○
賛同カード 自分が一緒に探究したいと思った TLT を選び、数字をきれいに大きく間違えず記入。 TLT に選ばれた人は、第1希望は自分自身に、一応、第2、3希望も書く。	組 番 氏名 第1希望 班	組 番 氏名 第2希望 班	組 番 氏名 第3希望 班	組 番 氏名 第4希望 班	どちらかに○
賛同カード 自分が一緒に探究したいと思った TLT を選び、数字をきれいに大きく間違えず記入。 TLT に選ばれた人は、第1希望は自分自身に、一応、第2、3希望も書く。	組 番 氏名 第1希望 班	組 番 氏名 第2希望 班	組 番 氏名 第3希望 班	組 番 氏名 第4希望 班	どちらかに○
賛同カード 自分が一緒に探究したいと思った TLT を選び、数字をきれいに大きく間違えず記入。 TLT に選ばれた人は、第1希望は自分自身に、一応、第2、3希望も書く。	組 番 氏名 第1希望 班	組 番 氏名 第2希望 班	組 番 氏名 第3希望 班	組 番 氏名 第4希望 班	どちらかに○

この用紙と賛同シートを本日中に職員室〇〇先生へ。

総合的な探究の時間 1年 第4回  
**惟信探究** 組 番  


地域探究 実践活動  
**「地元の宝探し」**

前回もチームでよく協力出来て、訪問先候補もほとんどのチームが報告できました。君たち一年生は、今後、2年生でも探究活動に取り組みます。実践の中で、主体的に取り組む行動をうまく身に付けてください。そして、一般授業や他の場面でも「主体性」を活かし、より価値のある高校生活に取り組んでください。  
**「誓のない、形も決まっていない課題に、皆と協力して、主体的に取り組む。」**  
 全ては経験することから始まります。一つずつの行動の目標は「**自ら納得する**」ことです。君たちの挑戦を応援します。

- 【本時の進行】 表面をまずよく読んで、本時の活動に取り組んでください。
1. 外部訪問先を決定。訪問先候補に電話をして、訪問の了承をいただく。  
 出来る限り、この授業中に、訪問先を決定しよう。(特別な事情がない限り訪問先は県内で。)遅くとも、次週までに訪問日も確定しましょう。(皆の予定合わせを先に確認しておく。)訪問先との打ち合わせを誠実に丁寧に行ってください。
  2. 宝の調査・研究、まどめをどんな裏面の報告下書きに書き込む。後日、レポートを作成。授業のはじめに「宝」の題名を単にその名称だけでなく、その良さ・魅力を一言で盛り込んだ「我が町の心のオアシス000」のようなキャッチなネーミングをチームで協議してください。ネーミングは、この時間中に決定。別紙用紙に記入し、委員に渡す。  
 続けて、宝の分析をしっかり協議しましょう。宝の調査・研究をまとめて、どんな裏面のレポート下書きに書き込む。後日、発表レポートを作成します。  
 ・宝の内容が詳しくわかる解説。写真や図も添えておきましょう。  
 ・宝の何が魅力なのかのポイント(しっかりとチームの皆で協議しましょう。探究の要点です。)  
 《発表のまどめに使うので、裏のページにどんな文章化しておきましょう。》
  3. 訪問時の行動の注意・マナーについて、委員の指示に従って、各自がしっかり理解してください。君たちの行動が、惟信高校のこれからの地域探究の出発点です。心して臨んでください。

宝のキャッチなネーミング メモ

協議の大切さ(皆で意見を交換し、考えを高めていく。この探究活動の主活動です。)

1. まず、意見を言うために「自分の意見を持つ」「言語化することとまどめ、再確認できる」「自分の意見が磨かれ、より深い考えが生まれる」「行動への主体的参加につながる」
2. 皆の意見の交換によって、「テーマをいろんな視点から分析できる」「考えが洗練される」「他の考えを吸収し、その人や、周りの考え、感じ方を理解できる」「協議の意識が高まる」  
 協議はテーマをより深く考え、高めていくと共に、仲間を理解し、  
 協議意識を高めていく重要な行動である。自分の「協議力」を育ててください。

**訪問時の注意**

- ★「惟信生の代表」としての意識を持って行動する。  
**「責任」は「主体性」の裏付けとなる「義務」である。**
- ★総探委員の指示に従って、一項目ずつ確認したら、順に口に入っていく。
- ・口 時間 厳守 (訪問先付近で、全員で一度時間の余裕を持って集合してから訪問する。)
  - ・口 服装 制服が基本 (運動が必要と予定される場合など、華美でないさわやかな服装を。制服以外の場合は、事前に担当教員に報告し相談する。)
  - ・口 マナー 挨拶 紹介 お礼  
 まず、自分たちの素性をしっかり告げ、**学校からの「訪問依頼状」**を渡す。  
 (惟信高校1年生、各自の名前、「授業の探究活動で取材にきました。」「本日はよろしくお願ひします。」)  
 (担当者だけでなく、訪問先の関係者には、全員で明るく元気に対応)  
 ・口 お礼は最後にしっかりと。  
 「お忙しい中ご協力ありがとうございました。大変参考になりました。」等
  - ・口 インタビュー内容は事前に考えてまとめておく。失礼の無いように。プライベート、機密事項に関する内容は、遠慮するように心掛ける。
  - ・口 訪問レポートに利用する写真などは、許しを得て撮影する。なお、肖像権等については、校内のレポート等を使う承諾を得ておく。
  - ・口 全ての行動について、惟信生として礼儀正しく、好印象を持たれるように行動する。

宝  
 ネーミング

レポート下書き

宝の**内容** (いろいろな視点から詳しく)

その**魅力** **要点**・**秘訣** (それぞれの感じ方)



④協議を元にこの時間中に完成してください。後日訪問レポートとしてまとめ、提出します。

至  
ネーミング

訪問レポート 準備用紙

宝の宝庫 (取材相手に告げられるように要点を考えてください。)

その魅力 要点・秘密 (皆の意見をまとめて)

取材内容 (特に調査したいポイント 簡潔書きで)

インタビュアー質問内容 (実際にどのように訊くか、全ての質問を言語化してください。)

# 惟信探究

総合的な探究の時間 1年 第4回  
組 番

## 地域探究 実践活動 「地域の宝探し」

訪問に向けて、最終協議とまとめが今回のワークです。

### ①訪問時の注意の再確認「責任」は「主体性」の裏付けとなる「職務」である。

- ★再度、班でリーダーが、各項目を読み、班員全員に対して確認、約束をしてください。
- 時間 厳守 (訪問先付近で、全員で一度時間の余裕を持って集合してから訪問する。)  
大きな施設の場合は指定された場所につきまわ。担当者と呼んで頂く。
- 服装 制服が基本 (運動が必要と予定される場合など、華美でないふさわしい服装を。  
制服以外の場合は、事前に担当教員に報告し相談する。)
- マナー 挨拶 紹介 お礼  
まず、自分たちの素性をしっかりと告げ、学校からの「訪問依頼状」を渡す。  
(惟信高校1年生、各自の名前、「授業の探究活動で取材にきました。  
本日はよろしくお願ひします。」)  
(担当者だけでなく、訪問先の関係者には、全員で明るく元気に対峙)
- お礼は最後にしっかりと。  
「お忙しい中ご協力ありがとうございました。大変参考になりました。」等
- インタビュー内容は事前に考えてまとめておく。失礼の無いように。  
プライバシー、機密事項に関する内容は、遠慮するように心掛ける。
- 訪問レポートに利用する写真などは、許しを得て撮影する。なお、肖像権等については、  
校内のレポート等に使う承諾を得ておく。
- 全ての行動について、惟信生として礼儀正しく、好印象を持たれるように行動する。

約束事

### ② 決定訪問先記入

訪問先 (対応者)	TEL	住所
日時	参加メンバー (名前を確認)	

③ 各自で時間をとって、裏面のインタビュー内容、質問項目を考えよう。

B紙フランド書き用（糊にして使用）1組3組は班で連絡を取り合っており、7日1回でB紙完成できるようにこの下書きを十分に準備しておいてください。休日に余裕を持って、頑張ってください。

# 惟信探究 総合的な探究の時間 1年

## 地域探究 実践活動 「地元の宝探し」

ほぼ全ての班が前向きに決まり、もうすでに訪問取材を済ませた班もあります。地元の宝の探究が君たちの手で、どんどん進んでいます。社会の皆さんの協力に感謝し、君たちが見つけた宝を大いにアピールしてください。

★今日の取り組みの前に、探究活動において重要な姿勢を考えてください。

### 「善く生きる」

総探究の活動の目指すところは、自分自身が前向きに取り組む、自分自身で「よくやった」と感じる「**自分の納得**」が全てです。「自己満足」のようですが、それを独りよがり  
の自己満足で終わらせない秘訣は、どんな時も「**より良いもの**」を作ろうと、どの場面でも「**自分の精一杯を尽くしているか**」という自分に対する厳しい眼を持って「**より良い行動**」を心掛けることです。

本来、我々が歩んでいる人生においても、他との比較や、点数などの画一的評価よりも、その場で「**より良い**」という**自分の意志と行動の積み重ねこそ**が大切であり、人生をより充実したもの、生きがいのあるものにしていきます。何をやっても面白くなかったり、不満ばかりが残る人はその姿勢が足りないのです。目先の結果や損得よりも、**一瞬の「精一杯」な行動が、やのいがいや喜びを与え、自分を成長させてくれるのです。**  
「より良いものを求めていく姿勢」が「探究」であり、「主体的に取り組む活動」に必要な心構えです。この「宝探し」の取り組みもその姿勢を持って臨んでください。

探究活動を通じて、「**善く生きる**」人生の歩み方を培ってください。  
この文では「良い」と「善い」をあえて使い分けています。自分なりに考えて、感じてください。

**本日の活動** 発表に向けて、「地元の宝 PR」の掲示物を作成してください。

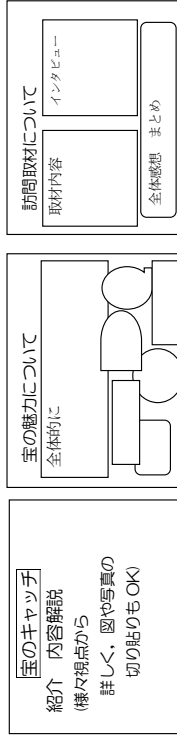
まず、裏面を利用して、レイアウト・デザインなどを考えて下書きをしましょう。

B紙の作業は(今回と次回 12月7日の2回)完成です。14日はクラス発表の予定。

B紙3枚を使用。カラーマジックを前班にワゴンセット貸し出します。

班員で、ページ（・宝の内容 ・魅力 ・訪問取材）を分担して、取り組んで下さい。

内容を大きく3つに分けましたが、この3つの要素を取り入れてくれれば、ページ配分等は、ある程度自由です。宝の魅力がいっぱい詰まった楽しい発表に仕上げてください。全部の班を一堂に展示する発表も予定しています。



# 惟信探究

総合的な探究の時間  
1年 組



人生初の「白紙から自ら創り出す取り組み」、どれだけ主体的に取り組めたか？  
それが、この活動の力であり、今後の人生の探究活動の始まりです。  
良いスタートが切れましたか？ 自分と向き合って、活動を振り返ってください。

## 本時の活動

- 2月8日「成果発表会」についての進行的再確認
  - 活動の意義** ここまでの活動を、学年全体、他学年、先生たちに披露する大切な機会です。全クラスのすべての班が発表する君たち1年生の輝きあるステージです。より充実した発表にするため、自分が何をすべきかをきっちりと把握し、意欲的に取り組んでください。自分が成功させるぞという一人一人の「主体性」が試される場面で、期待しています。
  - 準備** ポスターの完成度を上げる、PRの仕方、元気があがる発表の計画の相談。
  - 【当日】** ポスター掲示のため、午前中を45分授業となります。4時間目終了後速やかに昼食をとり、班で揃って、体育館に行き、協力してポスターを張ってください。養生テープをはじめに必要な長さで分け、気を付けて素早く丁寧に張ってください。**掲示場所（別紙参照）**、貼り方の確認。特に高い位置の掲示は事故に気を付ける。
  - 発表** ポスターの前で、「宝PR」をしてください。混雑した観客に元気に宝の名称・アピールポイントを訴えてください。質問にも答えて下さい。途中、約10分後「宝発表タイム（5分）」では、他の班に負けないように、大きな声で「キキハキ七分」担当して発表しましょう。発表タイム・交代のタイミングは指示します。  
前半 13:30頃～(20分) →各クラス 奇数班 (1,3,5,7班) はポスター前でPR・発表  
後半 13:50頃～(20分) →各クラス 偶数班 (2,4,6,8班) はポスター前で紹介・発表  
残りの生徒は、観客として、体育館を巡回。積極的に質問してください。
- タブレットアンケート** 担任の先生から配布された用紙に従って、タブレットでアンケートに回答してください。キキハキと15分～20分程度で済ませるように。
- 裏の「ワーク」の文をしっかり読み、自分の反省をきちんと記録してください。全員、提出してもらいます。探究活動の仕上げの取り組みです。感想・反省の言葉もしっかりと残してください。時間内でできない場合は明日のSTで提出するように。

大学や専門学校に行く、社会で働く、社会で生きる。これからの人生で、皆が自分の選択で、主体的に生きていくべき場面はどんどん広がっていきます。今回の活動はすべての始まりです。成果発表・マルシエの発表、1年の活動もあとわずかです。君たちの成長を期待します。

## 第1学年「総合的な探究の時間」第8回ワークシート（振り返り）

### ワーク 探究活動を振り返る。他人の評価でなく、自分の評価が大切だ。

探究活動において、重要なポイントがいくつかあります。ここでは、まず次の4つの項目に「探究力、協働力、社会交流力、発表力」ついて自己評価してください。

**自己評価<1>探究力** 自分の宝・チームの宝について深く調べ、魅力を発掘できたか？

①大変よくできた ② かなりできた ③ どちらとも ④ あまりできなかった ⑤全くできていない。

**自己評価<2>協働力** チームの仲間との話し合いや作業の協力などの連携はよくできたか？

①大変よくできた ② かなりできた ③ どちらとも ④ あまりできなかった ⑤全くできていない。

**自己評価<3>社会交流力** 宝の方との訪問交渉・訪問取材での対応や学びは十分か？

①大変よくできた ② かなりできた ③ どちらとも ④ あまりできなかった ⑤全くできていない。

**自己評価<4>発表力** 自分の探究活動をポスターやスピーチうまく発表できたか？

①大変よくできた ② かなりできた ③ どちらとも ④ あまりできなかった ⑤全くできていない。

この4点について、特に感じたこと、良い点、悪い点を考え、評価・感想を率直な言葉にしてください。


**主体性** 「主体的に取り組み」を主要テーマとして、この探究活動に取り組んできました。授業は探究委員が進行し、教師からの指導は無く、自ら取り組みたい舞台を与えられました。「自分のやる気をエネルギーに、道なき道を進む。」君は、主体的に行動できましたか？

主体的というの、いろんな捉え方ができますが、間違いないことは「自分で考え、自分で行動する。」ということです。だからこそ、主体性を育てるには「**まず経験すること**」です。

この活動は、日頃の学校活動とは正反対の「**手本書がない**」「**先生が導いてくれない**」「**点検という明確な指標がない**」という、初めての自由度が高い取り組みを経験しました。

手から放たれた風船のように、自由に空を飛んだら、自分はどんなふうにならうに飛んだのでしょうか。自由はある意味面倒くさい。敷かれたレールを進む方が楽でよいと感じた人もいたでしょう。

この活動の中で、自分がどう感じ、どう行動できたか。自分自身に問いかけてください。

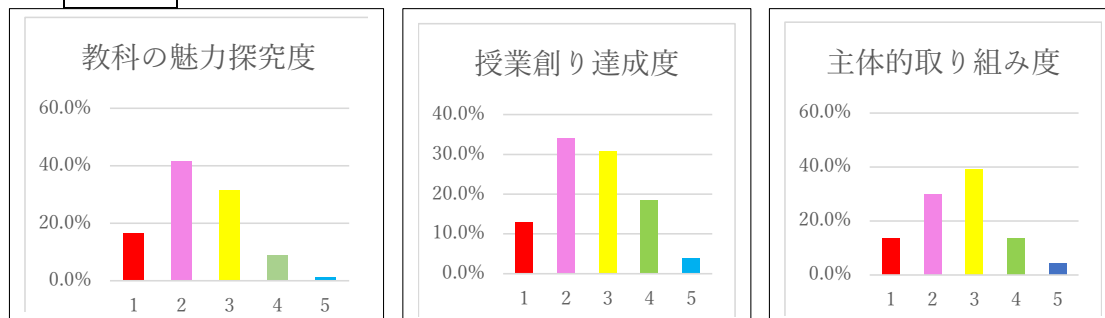
**自己評価<5>主体的行動達成度** 全ての活動面で、自由を楽しみ主体的に取り組めたか？

1. 大変よくできた ② かなりできた ③ どちらとも ④ あまりできなかった ⑤全くできていない。

良い点、悪い点を考え、評価・感想を率直な言葉にしてください。)

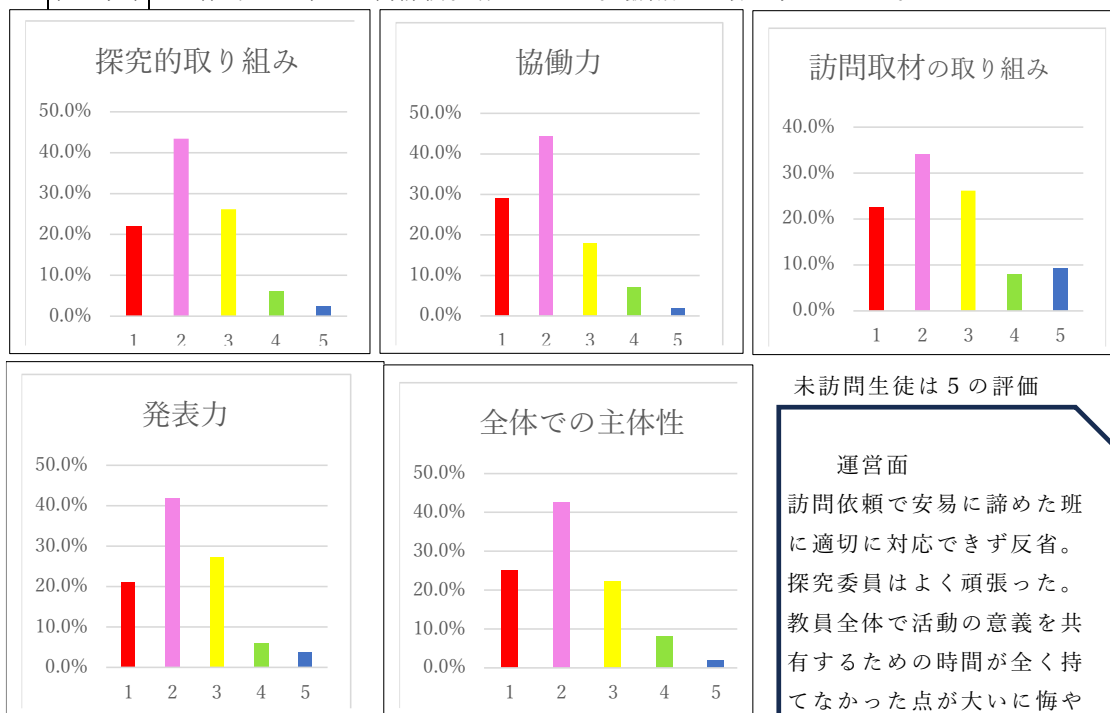

「総合的な探究の時間」生徒自己評価 集計結果と反省 (ワークシート参照)

**第3学年** どれも手ごたえはある程度あったようだが、主体的な取り組みが一番厳しい。



1 大変よくできた。2 かなりできた。3 普通 4 あまりできなかった 5 全くできなかった

**第1学年** 全体的に3年より高評価。甘いのかも。協働力に最も手ごたえを。・・



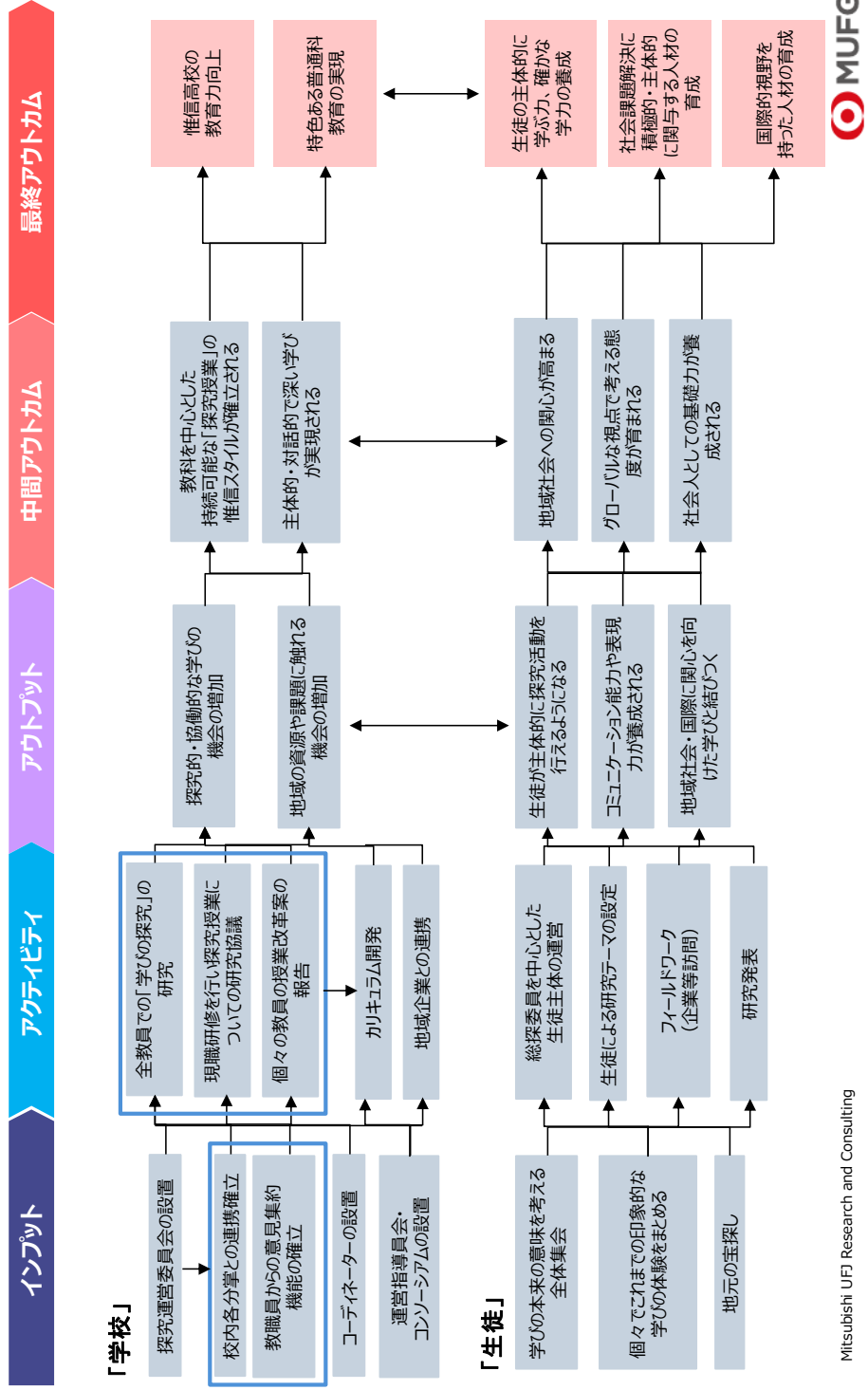
両学年共に 短期間の取り組みにしては、よくやり遂げたとホットしている。

観察としての探究度は、本校生徒はまだまだ甘いと感じる。1年生は。厳しい日程の中、マルシェまでやり遂げたが、生徒は失敗も含めて、来年度への良い布石となったであろう。

参考資料

<参考資料①> ロジックモデル

# ロジックモデル（愛知県立惟信高等学校）



<参考資料②> 「探究授業とは？」(集約資料)

探究授業とは？		その可能性・意義・課題・目的を語る		9月 探究部協議-集約資料
指標	従来授業	探究授業	総合的な探究の時間	
場所	教室	教室・特別教室	校内・校外	
生徒主体参加形態	教師からの講義形式が基本。質疑応答はあっても生徒は受け身で教師の主導で授業は進行。	生徒が思考・発言・話題提供・協働する場面が多くなるように教師が工夫し、生徒の主体的参加で授業が柔軟かつ活力を持って進行。	教師が設定した取り組みの大枠を元に、生徒個々が課題を自ら設定し、調査研究・分析・まとめ・発表を自力で進める	
教材 題材	教科書に使用し、それに従った題材で、補助として既定の参考書・問題集・資料集を活用。	教科書だけでなく、教師が工夫した教材を積極的に作成・活用。生徒が実感を持つ題材を工夫。	生徒がテーマを設定し、最小限の誘導・教材で、生徒が創造力を持って活動。	
授業の主目的	知識・技能の習得。実直で勤勉な資質の育成を大切にその後の進路の可能性を拓げる。	生徒の思考力・判断力・協働力・発表力の育成を重視し、学びの本質的理解、その探究姿勢を養う。生徒の興味関心に主眼を置くことで今後の学びの自走性に繋がる。	物事に主体的に協働的に取り組む経験を積み、自ら考え、自ら行動する人間力を育成。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">主体的な学びの資質育成</div>	
教員負担と成果	従来通りの負担なので、大変でも不安は少ない。他の教員と比べることなく、話し合う場もない環境なので、高い自律心がないと指導力が向上しない。	個人の創意工夫で授業を作り上げるといった責任が問われ、授業準備の負担も大きい。教員の資質は年々向上し、成長意欲が継続し、生徒の模範となる。	経験のない活動への挑戦意欲が必須であり、広い視野で想像力を持って授業を作り上げる新たな研究・労力が必要。生徒育成の新視点を獲得。	
生徒負担とやりがい	常に与えられてことに従う点では楽だが、従属的で意義を感じなくてもやらなくてはならないという点での不満は残る。点数や進路実現が成果である。	自ら創意や熟考を求められる。主体は常に責任を伴うので、大きな負担である。困難でも意義あることに対して、自らの納得を求めて立ち向かう資質を育てる、	誘導、道筋の決められていない取り組みは、不安であり面倒である。試行錯誤の中、仲間と協働し、遊び感覚も含んだ達成感を得る貴重な体験。	
待・成果 成長の期	知識・技能を効率的に習得。定型の答を満点として、正確に再現する従属的達成能力を培う。	思考力・判断力の向上。真理を尊び探究する精神を育て、得た真理を複合的に捉え、自己の考えに。	課題を自分で見つけ、自ら考える行動は自信と共に主体的な課題解決能力を養う。	
評価・ 考查	知識技能を判定する一斉の定期考查が主。ペーパー試験の点数による相対評価が評価の中心。	柔軟な考査制、例えば、知識技能試験と思考力・創造性判定試験を別に。発表・レポート等も評価。	相対評価は不向き。前向きな実行ができれば及第。発表・論文活動。自己評価で反省を。	
発表力 協働・対話力・	教員の講義形式中心の授業では生徒の協働はほぼ無く、教師・生徒の対話、生徒の発表の場も意識的に設けなければ少ないだろう。	グループ形式では盛んに協働は実施されるが、話し合うだけでは協働の意義が活かされない。既存授業でも工夫した発問→回答による対話で生徒参加が十分可能。	協働・対話・発表は総合探究の基本活動。白紙からの創造的活動では、協議や役割分担の協働。そして校外の方との対話、活動の発表は必須。	
・課題・問題点 大学以降の行動・成長	幼少より常に与えられた課題に受動的に取り組み、点数という無機質な相対評価に縛られたことは、卒のない作業力を付けるが、学びへの純粋な意欲を育てない。「成績⇒就職有利」でない実情が、学びが手段でしかないと大学での学びを怠る要因に。	自分で大切に感じることを元に自身の納得を目標に取り組む姿勢が身に付き、大学での探究活動にも自ら取り組むことが期待できる。また社会で出会う正解の無い課題にも自分の方策を見出し、より良い方向に向かう資質を養う。	社会での課題は決まった正答も定型の路線も無い。総探で自らの課題に仲間と協力して解決への方向を見出し自らの納得を求めて進む姿勢は、大学や社会において、また人生を生き活きと歩む必須の要素である。	

<参考資料③> 「学びの探究」に向けた各教員・教科の研究（アンケート回答抜粋）

全教員で皆の回答を共有することで「惟信授業改革の出発点」とする。

- ① 生徒の考える力や主体性を育てる授業についてのご意見やここまでご自身が行い組んでこられたこと、また大切にされてきたことについて
- ② 今後、授業改善等「学びの探究」に取り組むことについて、ご自身のお気持ちや具体的な方法または工夫について
- ③ ご自身の教科の「学びの探究」についての在り方、可能性について
- ④ 教科指導に関する学校のシステム（考査・評価）など全般について

<p>① <b>（数学）</b> 導入部分で出来るだけ日常的话题を取り上げていく。また、発問の後、説明をする前に、考えをまとめるための間の取り方を工夫する。<b>（地歴）</b> 授業内容を要約したり、漫然と話し合ったりするのではなく、生徒自身がAとBのどちらがよいか選ぶような問いを立てること。「選択」の過程に思考は生じる。</p>	<p>② <b>（理科）</b> 学びの探究は、答えを待つのではなく、わからないことは聞く・調べるといった習慣を身につけることが必要。そのため、授業内では生徒同士で教えあうことや、ICTを活用した主体的な授業をしていきたい。<b>（家庭科）</b> 自分の生活を振り返り生活上の課題を設定し、その解決方法を考え実践するという問題解決学習をさせている。しかし、課題を見つけることが難しい現状である。</p>
<p>③ <b>（芸術）</b> 色々な表現方法を学び、それらを用いて自分の考えや思いを可視化させることで、今まで気が付かなかった自分の一面や自分の能力、可能性を感じてもらいたい。 <b>（国語）</b> 授業の進度キープと探究的な授業を両立する手段が思いつかない。反転授業などで通常授業の50分で利用できる時間を増やす。基本事項を授業で学習している現状では不可能。今の授業スタイルを崩すことから始める必要がある。</p>	<p>④ <b>（国語）</b> 定期考査のために授業をするようになっってしまったはいけないので、柔軟に評価したい。定期考査ではなく単元別評価にすることで指導と評価の一体化は図ることができるが、普通科として一般入試を考えると学期に1回にするくらいが妥当なところだろう。<b>（理科）</b> 定期考査を、「思・判・表」の部分を中心に問うための考査としての期末考査だけにする。「知・技」の部分は”基礎的な知識”の確認にとどめ教科の進度によって自由に実施スタイルとしてはどうか。</p>

<参考資料④> 教員研修（研究協議）

★「子供たちの『芯』を育てるための教科の魅力・役割」について（意見集約）

国語	人は言葉で、考え、想像し、生きる術を手に入れる。言葉をより正しく深く理解させることで、生徒の人生を豊かにそして確かなものに導くことが国語の大きな役割である。そして、あらゆるジャンルの文章を扱うことで、多くの知に触れることや感動の機会を促し、その際培った言語力によって、彼らの生きる基盤をより強固にかため、その精神の芯を揺らぎなく、個のものとして強くたく育てる。
地歴 ・ 公民	「歴史」を探究し、「現代社会」で世の中を見つめる行為から、自分の考えを熟成し、目前の問題にどう向き合うべきか、どう切るべきかを考えることによって、生徒が自身の中にある「芯」と向き合う機会を持たせることも社会の持つ魅力であり。役割である。
数学	自分が求める答えにたどり着くためには様々な視点から考察、実験をし、そこから得られた自分なりの答えを吟味し検討する必要がある。数学は。生徒が自分で考えれば自分で確かな答えを導ける経験をさせられることができる。数学は「抽象→具体」をとらえる学問であり、先が見えない不透明な世の中を自分なりに理解し、表現する力を養う。また身の回りで起きる問題・課題を解決するための情報を、自分の頭で適切に並び替えて整理し、表現する力を育成する。
英語	芯の育成には【自分軸】を育てることが大切である。英語は言語活動であり、様々な情報を整理し、伝えるコミュニケーション活動を通じて、自分の意見をより確かなものにさせ、さらに自己を見つめる機会を持つことで、自分軸を確立させ、自己肯定感につながる。また、外国の文化の理解や海外流の「個」を大切に考える考えに触れたりすることも
理科	理科では実験から得られることが大きいと考えている。実験で、「なぜ」→「納得」が可視化できることは理科の強みである。自の手で実験に取り組む主体的な行動は、失敗も含めて正しい考え方を習得でき、科学的思考力を高めることができる。（非科学的、誤った情報に基づく言動に惑わされない思考が身に付く）
保健 体育	各種の運動を通して仲間と交流する活動を通してコミュニケーション能力が身についたり、チームの目標をたて達成したりすることができれば、生徒が将来社会へ出たときに自己実現をしていこうとするよう育てることができる。
芸術 家庭 情報 養護	自分の内面を、音楽や美術作品として表現することで、自分自身の持つ新たな一面に気付き、自信を付けるという力・魅力がある。生きていく上で必要な、情報収集力、情報発信力、コミュニケーション能力を養う。人生の中で起こりうるリスクを想定し、それを乗り越えられる知識や技術を習得させる。



<参考資料⑤> 令和5年10月24日(火) 中日新聞 Web 掲載記事

## 治安改善へできることは？ 名古屋・惟信高生徒が港署を訪問

2023年10月24日 05時05分 (10月24日 11時34分更新)



自身で作った交通安全施策の資料を署員（左）に見てもらう生徒ら＝名古屋市港区の港署で

地域の治安改善のために自分たちにできることを考えようと、名古屋市港区の惟信高校の2年生16人が19日、港署を訪れ、署員に質問した。

同校では、区や企業などと協力し、地域社会をよりよくする方策を考える授業を実施。その一環で交通安全や防犯、オートバイの騒音対策などを考えている生徒らが、署を訪れた。

生徒らは、「治安が悪くなる原因は何か」などと質問。署員が「地域の目が行き届かない場所は荒れやすい」などと答えていった。

大橋咲弥さん（16）は「防犯の意識を各自が持つことの大切さなど、自分たちがこれまで考えてきたことが間違っていないことが分かった」と話した。今回得た知見を基に、ポスター制作や広報活動に取り組む予定だという。

<参考資料⑥> 令和6年3月16日(土) 中日新聞 Web 掲載記事

## 名古屋の「宝」を惟信高生が発掘

2024年3月16日 05時05分 (3月16日 10時33分更新)



名古屋海洋博物館の魅力を紹介する岡田さん（左）と同館の吉井さん（右）＝港区惟信町2で

惟信高校（港区）の生徒が市内の魅力伝える催し「惟信マルシェ」が15日、同校で初めて開催され、1年生が昨年10月から約3カ月間かけて集めた観光施設の見どころ情報などを近隣住民らに発表した。

生徒自らが考え、行動する力を育む授業の一環。約280人が56のグループに分かれ、「地元の宝」と考えた地元の飲食店や祭事などをそれぞれ取材、制作したポスターを体育館に掲示した。このうち、6グループがブースを設置。名古屋海洋博物館（同区）をPRするブースではポスターに加え、展示品の写真を並べたり、公式パンフレットを配布したりした。

同館の紹介を提案した岡田美桜さん（15）は「小さい頃によく遊びに行った施設。展示物がすばらしく、もっとたくさんの人に訪れてほしい」と願った。同館の学芸員、吉井誠さん（59）は「高校生の目線で紹介してもらえるのは貴重。新しい気付きもあった」と喜んだ。（古畑克真）

# 愛知県立惟信高等学校

令和6年度 創立100周年スローガン



## 伝統を超えろ ~Toward the 100th Anniversary~

地域とともに歩み、グローバルリーダーの育成をめざします



やっばるがや!  
惟信

〒455-0823

愛知県名古屋市港区惟信町2丁目262番地

電話番号 052-382-1355

FAX 052-384-4606

H P <https://ishin-hs.jp/>

